

# 目 次

	頁
序 言 .....	1
<b>第一 最近英國ニ於ケル行政法及ビ行政裁判法ノ二大快著</b>	
(A) ロブスン教授著『行政裁判及行政法論』.....	5
(I) 第一章 『行政權ト司法權』概要.....	6
(II) 第二章 『司法裁判所ニ於ケル裁判』概要.....	6
(III) 第三章 『行政部裁判所』概要.....	11
a) 鐵道裁判所 .....	14
b) 保健大臣 .....	14
c) 倫敦建築物裁判所 .....	15
d) 地方會計検査官 .....	15
e) 國營健康保險裁判所 .....	16
f) 失業保險裁判所 .....	16
g) 文部大臣 .....	17
h) 商務大臣 .....	17
i) 交通大臣 .....	17
j) 恩給裁判所 .....	18
別項 a) 發明者補償委員會.....	18
b) 法務官及ビ特許抗告審判 .....	19
c) 戰時補償裁判所 .....	19
(IV) 第四章 『自治裁判所』概要.....	21
(V) 第五章 『裁判精神』概要.....	22
(VI) 第六章 『行政部ニ依ル審判』概要.....	32
(a) 行政法及ビ行政部裁判所發達ノ原因 .....	32
(b) 現行行政部裁判制度ノ長所 .....	34

(c) 現行行政部裁判制度ノ短所	35
(d) 行政部裁判機關ノ構成	36
(e) 現行行政法ノ危險	38
(f) 行政部裁判所及ビ自治裁判所ニ對スル統制	38
(g) 行政部裁判制度改革案概要	40
<b>(B) ポート博士著『行政法論』</b>	42
(I) 第一章 『主題ノ意義』 概要	42
(II) 第二章 『歴史的梗概』	44
(III) 第三章 『三大政府作用及其ノ内部關係』 概要	49
(IV) 第四章 『行政團體ニ依ル立法』 概要	49
(V) 第五章 『司法作用ニ對スル行政團體ノ關係』 概要	51
(VI) 第六章 『米國行政法』、第七章 『佛國行政法』、及ビ第八章 『結論』等ノ概要	52
<b>第二 英國ニ於ケル其他ノ參考書</b>	52
(I) 一般的ノモノ	52
(II) 特殊行政法問題ニ關スルモノ	53
<b>第三 米國ニ於ケル行政法及ビ行政裁判法研究資料</b>	54
(I) 一般的ノモノ	55
(II) 特殊ノモノ	57
(A) 行政部裁判機關ニ共通ノモノ	57
(B) 各個ノ行政部裁判機關ニ關スルモノ	59
(C) 行政部裁判制度ニ對スル批判	60
(D) 行政部裁判手續ニ關スルモノ	61
(E) 行政部裁判機關ニ依ル裁決ノ終決の效力ノ存否及ビ之レニ對スル司法統制權ニ就テ	62
a) 行政部裁判ノ終決の效力ニ關スルモノ	62
b) 行政部裁判ニ對スル司法統制ノ有無及ビ範圍等ニ關スルモノ	63

---

(F) 特別裁判所タル行政裁判所ニ關スルモノ	66
a) 一般ニ共通セルモノ	66
b) 請求裁判所ニ關スルモノ	67
c) 關稅裁判所及ビ關稅控訴院ニ關スルモノ	68
d) 高等行政裁判所設置提案	68
e) 特別行政裁判所設置提案	69
(G) 國家及ビ州ノ被訴能力及ビ責任限度ニ關スルモノ	69
(H) 特別行政救濟等ニ關スルモノ	70
(I) 行政部ニ依ル委任立法權ノ行使ニ關スルモノ	70

# 英米行政法及行政裁判法研究

## 資料ノ紹介

中 村 彌 三 次

---

序言——英米法ノ下ニ行政法乃至行政裁判法ナル題目ガ、一個ノ獨立部門トシテ、理論上成立シ得ルカ、實際上ニモ亦存立シ居ルカ否カハ、從テ之等ガ一個ノ特殊ナル公法學上ノ對象トシテ取扱ハレ得ルカ否カト謂フ問題ハ、過去二十年程ノ間ニ互ル、英米法學界ノ最モ喧シイ論争ノ一デアツタ。而シテ其ハ今日ノ所全ク積極論者ノ側ノ勝利ニ歸シテ居ル。曾テハ消極論ノ急先鋒タリシ故 Dicey 教授ノ如キモ、後述ノ如ク其ノ長逝セラル、ニ先立ツ數年前、其ノ殆ト一生ヲ捧ゲテ熱心且強硬ニ主張セラレタ消極說ヲ、苦惱ニ滿チタ詞ヲ以テ拋棄セラル、ノ餘儀ナキニ立チ至ツタノデアツタ。斯クテ勢ニ乗ジタ積極論者ガ過去十數年程ノ間ニ、或ハ單行ノ論著ニ依リ、或ハ法學定期刊行物ニ依ツテ、行政法及ビ行政裁判法ノ一般的及ビ特殊的ナル各種ノ論點ヲ取扱ツタ所ハ、實ニ夥シイ數ニ上リ、洵ニ汗牛充棟モ雷ナラズノ感ガアル。然ルニ英米兩國ト極メテ密接ノ關係ニ在ル我國學界ノ之レニ關スル理解ハ如何トイフニ、餘リ香シ

カラヌ情態ニ在ルモノノヤウデアアル。蓋シ例ヘバ、昭和四年我國ニ於ケル最初ノ行政裁判法論ナリト銘打ツテ出タ東京帝國大學教授美濃部博士著『行政裁判法』第十九頁ノ如キハ、『……英米系統ノ國法ニ於テハ、明白ニハ其（公私法）ノ區別ヲ認メズ、行政官憲ノ行爲ニ付テモ一般人民ノ行爲ニ等シク一般コムモン・ローノ支配スル所デアルトシ、行政作用ノ準則トシテ行政法トイフ法ノ特別ナル種類ノ存在スルヲ認メナイ。隨ツテ英米法ニ於テハ、民事裁判ト區別セラレタ特別ナル行政裁判ノ制度ハ、全ク發達シテ居ラス』トアル。又同博士ノ名著『日本行政法』第二卷第二百七十九頁ノ如キニ於テハ、『……斯カル制度ノ必要ヲ論スル者スラ全ク之ナキナリ』トマデ、極言セラレテ居ル。更ニ京都帝國大學教授織田博士著『行政法講義』總論第二百八十乃至二百八十一頁ノ如キニモ、之レト略同趣旨ノコトガ述ベラレテキル。吾人ハ之レヲ英米行政法學ノ沿革及ビ現狀ニ比較スルトキ、之等權威アル我國法學者ノ斷定ガ餘リニ素朴ニ過グルコトヲ遺憾トセザルヲ得ヌ。蓋シ私モ既ニ『早稻田法學』第八卷（昭和三年一月）第四頁註一ニ於テ言及シテ置イタヤウニ、米國ニ於テハ對國家請求權ノ問題ヲ審決セシムル爲メニハ、1855年ニ請求裁判所ヲ、關稅事件ヲ特ニ審決セシムル爲メニハ、1909年ニ關稅控訴院ヲ設ケ、更ニ、1926年ニハ關稅評定總務委員會（1890年ニ創設セラレタルモノ）ヲ、關稅裁判所ニ昇格セシメタル等ノ結果ニ由リ、米國ニモ既ニ古クヨリ

『民事裁判ト區別セラレタ特別ナル行政裁判所』ガ、嚴然トシテ存在スルニ至ツテ居ル。英國ニ於テモ亦後ニ紹介スルガ如ク、行政各部ノ専門的又ハ行政技術的事件ノ決裁ニ就テハ、夫々事件ノ性質ニ應ジテ相異ナル各種ノ特別行政裁判機關ガ設ケラル、ニ至ツテ居ルカラデアアル。而已ナラズ英米兩國ニ於ケル行政裁判機關(後段評述)、換言セバ佛蘭西及ビ獨逸等ニ於ケル第一審行政裁判所ト等シク、行政機關ニシテ同時ニ行政爭訟事件ヲ司法的ニ審決スルノ權限ヲ委ネラレタルモノハ、各國共ニ無慮數百ヲ算シ、米國ノミニ於テモ現大統領 Hoover 氏ガ 1925 年ニ言明セル如ク、當時既ニ貳百有餘ニ達シテキタ。既ニ行政法適用ノ專任機關ノ存在スル以上、『行政法トイフ法ノ特別ナル種類ノ存在スル』コトハ、殆ド自明ノ理デアラネバナラス。之レ私ガ茲ニ英米行政法ニ關スル研究資料ヲ紹介シテ、之レヲ我國學者ノ高究ニ借セムトスル第一ノ理由デアアル。而シテ更ニ許サル、ナラバ、次ノ如キ第二ノ理由ヲモ附ケ加ヘテ置キタイト思フ。即チ近年我國ニ於テモ、近代資本主義法律制度ガ生ムダ各種ノ弊害ニ備フル爲メ、各種ノ社會政策的乃至ハ社會主義的立法モ、漸次其ノ緒ニ着イテ居ル。而カモ斯カル立法政策ハ、現時ニ於ケル世界各國ノ其レト等シク、殆ド例外ナク行政權ノ活動範圍、殊ニ人民各個ノ權利及ビ自由ニ干涉スルノ範圍ヲ甚シク擴大シ行クノ傾向ニアル。斯クテ勢ノ底止スル所ナクバ、吾人ノ父祖ガ過去幾世紀ニ互ツテ鬪ヒ取ツタ個人ノ權利及ビ自

由ハ、此ノ歴大化サレタ行政權ノ前ニ壓死セシメラル、ノ外ナキニ至ルカモ知レヌ。公益ノ名ニ於テスル行政權ノ干涉ト個人的自由及ビ權利トノ間ニ於ケル、相互ノ關係及ビ限界決定ノ標準ヲ奈邊ニ求ムベキカハ、今日及ビ明日ノ公法學ニ課セラレタル一個ノ難問題デナケレバナラヌ。即チ從來資本主義國家ニ於ケル或種ノ問題解決策トシテ迎ヘラレタル此ノ種立法政策ハ皮肉ニモ、同時ニ、向後逐次定型化サル、ニ至ルベキ社會政策國乃至社會主義國家ニ於ケル、斯カル別途ノ問題ヲ醸成スル作因トナツテキル次第デアアル。此ノ點ニ於テ最モ著シイ範ヲ示スモノハ、先ヅ英米兩國ナリト謂ハネバナラヌ。蓋シ最モ極端ナル個人主義法理ニ依立スル近代資本主義法制ヲ最先ニ樹立シタルハ英國デアリ、其ノ殿タルハ米國デアアル。從テ其ノ長所ヲ極度ニ發揮シ、同時ニ其ノ短所ヨリ來タル弊害ヲ最モ深刻ニ經驗シタルモノモ亦之等兩國デアアル。サレバ其ノ對症的立法政策ヲ採ルニ當ツテモ、其レガ齎ラス善惡兩用ノ影響亦甚大ダカラデアアル。

我國ガ今日其ノ當面セル國家生活ノ合理化問題ヲ解決セムトスルニ當ツテ、暴力革命ノ如キ煮湯ヲ吞ムコトヲ避ケ、微温ナガラモ合法手段ヲ選バムト欲スルナラバ、就中英國近時ノ社會主義立法政策程、好キ模範ヲ垂レルモノハ他ニ無イト信ズル。而シテ此ノ點ニ關スル法律哲學的考察ハ、既ニ昨年早稻田大學教授大濱信泉氏ガ『英國社會主義立法』ナル小冊子ニ於テ簡明

凱切ニ遂ゲラレテキルカラ、我々ハ斯カル立法政策ノ根本精神トスル所ハ同著ニ依ツテ遺憾ナク把握スルコトヲ得ル。ガ然シ之レト同時ニ公法學上ノ特殊視野カラ觀タ法律技術の部面ノ考究モ亦等シク重要デナケレバナラス。是レ前述ノ如ク私ガ茲ニ英米行政法及ビ行政裁判法等ノ研究資料ヲ紹介シテ、我國學界ノ興味ニ訴ヘムト欲スル第二ノ理由デアル。

### 第一 最近英國ニ於ケル行政法及ビ行政裁判法論ノ二大快著

英國憲法及ビ行政法研究ノ爲メニ渡英ノ機會ヲ與ヘラレタ私ニ取ツテ甚ダ幸ヒナ出來事ハ、下記ノ如キ行政法及ビ行政裁判法ニ關スル二個ノ劃期的ナ快著ガ、共ニ私ノ滯英中相前後シテ公ニサレタコトデアツタ。倫敦大學法學部教授 Dr. W. A. Robson's "Justice and Administrative Law," MacMillan, London, 1928; Dr. F. J. Port's "Administrative Law," Longmans, London, 1929. 即チ之レデアル。殊ニ前者ハ英國學者ガ關係題目ヲ一個ノ單行書ニ於テ取扱ツタ著作トシテハ最先ニ現ハレタモノデアツタ。ケニ、學界一般ノ興味及ビ反響モ強ク、英米兩國ノ法學雜誌ハ之レガ Book-Review ヲ以テ可成リ賑ヲ呈セルノ有様デアツタ。私モ同教授ヨリハ同著ヲ根幹トスル英國行政法ノ講義ヲ親シク拜聽シ、種々有益ノ暗示ヲ受ケ且關係問題ニ就テモ種々其ノ高見ヲ承ル機會ヲ得タカラ、同著ニ就テハ特ニ深イ親シミト興味トヲ抱イテキルモノデアル。仍テ Dr. Port



ノ一般的ナル『行政法論』ニ比シテ其ノ題目稍特殊ナル關係上、聊カ順序不同ノ嫌モ無イデハナイガ、先ヅ Robson 教授ノ『行政裁判及行政法論』ヲ最初ニ、而モ本稿ノ性質ガ許ス限り詳細ニ紹介シヤウト思フ。

#### (A) ロブスン教授著『行政裁判及行政法論』

本書ノ目的ハ其ノ緒言ニ示サレタル如ク中央政府行政各部及ビ各種ノ公法人又ハ私法人等ニ依ツテ、現ニ行使セラル、司法權及ビ司法的活動ノ性質並ニ其ノ限界等ヲ考究シ、斯カル變則的裁判機關ニ對シテ司法權ヲ委ヌルニ至ツタ原因ヲ分析説明シ、及ビ之等ガ齎ラス所ノ利不利ヲ評價セムトスルニ在ル。而シテ著者ノ方法ハ後ニ明カナル如ク、單ナル概念法學流ノ其レニ非ズシテ、謂ハバ一種ノ社會法學の方法デアリ、就中其ノ力點ヲ心理學の方法ニ置テキル。仍テ方法論的ニモ極メテ有益ナ示唆ニ富ムダモノト謂ツテ好イト思フ。著者ガ英國行政法及ビ行政裁判法ノ今日及ビ將來ニ對スル見解ハ、可成リ樂觀的デアツテ、其ノ親シク語ラル、所ニ依レバ今後英國公法體系ガ逐次大陸化シ行クコトハ實ニ不可避的ノ運命デアリ、且其レニ依ツテ英國公法學ハ其ノ内容ヲ豐富ニシ及ビ其ノ體系ヲ組織化スルニ至リ得ルデアラウト。

(I) 第一章 概要 本章ハ『行政權ト司法權』ナル主題ノ下ニ、先ヅ政府存立ノ基礎ガ、其ノ一般抽象的タルト特殊具體的タルトヲ問ハズ總ベテ社會生活上發生シ得ベキ一切ノ法律的事

案ヲ判斷シテ之レガ規律ヲ立定スルノ權ニ在リトシテ、政府存立ノ理據ヲ心理學的基礎ノ上ニ置イテキル。而シテ行政法モ結局、行政ナル特殊手段ヲ以テスル此種ノ判斷及ビ規範立定ノ作用ヲ主タル内容トスベキ事ヲ示シテキル。次デ著者ハ行政作用ト司法作用トノ區別標準如何ノ問題ニ就テハ、幾多ノ判例ヲ詳細ニ比較論評シツ、結局『當事者ノ權利義務ヲ爭訟ノ形式ニ於テ審決スル行爲』ヲ司法作用ト解シ、然ラザル形式ト方法トニ依ツテスル各個ノ法律事案ノ處理ヲ以テ行政作用ト解スルノ外ナシトシテキル。然カモ其ハ理論上ノ區別タルニ過ギヌ。事實上凡ベテノ作用ガ然カク明瞭ニ區別セラレ得ルモノデハ無イ。加之、英國憲法ハ其ノ所謂三權分立主義ヲ採用スルニ當ツテモ、Montesqienノ誤傳スルガ如クニハ、明確タラズ、否或場合ニハ便宜上ノ問題ヨリシテ好ムデ數權併用ノ制ヲ採ルコトスラアル。故ニ英國公法ノ上ニ於テ司法作用ト行政作用ノ嚴格ナル區別ハ、結局徒勞ニ歸スルノ外ハナイ。例ヘバ Justice of Peaceノ如キハ、遠カラザル過去ニ於テ立法・行政・司法ノ數權ヲ併掌シタルガ如キ、或ハ現ニ司法裁判所ガ廣大ナル行政的權力即チ司法行政權ヲ行使シツ、アルガ如キ之レデアル。從テ著者ニ依レバ、後述ノ如キ現行行政部裁判機關ニ依ル數權併用ノ制モ、何等英國憲法ノ傳統及ビ根本法理ニ反セザルモノデア

ル。

英國行政法ノ存否問題ニ就テハ、著者ハ先ヅ故 Dacey 教授ノ

所説ガ、過去數十年ノ永キニ互ツテ英米兩國一般ニ對シテ、『英國ニ行政法ナシ』トノ謬想ヲ植付クルニ至リタルコトヲ難ジ、殊ニ Dicey 教授ハ佛國行政法 “Droit Administratif” ノミヲ唯一ノ行政法ナルカニ看做シテ、他國ノ其レトノ比較ニ意ヲ須ヒズ、前者ト英國普通法トノ間ニ於ケル法律狀態ノミヲ比較シテ、直チニ英國ニ行政法ナシ又ハ尠クトモ理論上存立スル能ハズト斷定セルハ、早計デアツタ。即チ佛國行政法ニ相當スル行政法ノ英國ニ存在セズ或ハ存立シ能ハズト謂フコトハ、必ズシモ英國ニ英國特有ナル行政法ノ、或ハ佛國以外ノ行政法ニ類似セルモノ、存在又ハ存立ノ可能性ヲ否認スル理據トナスニ足ラスコトヲ指摘シテキル。而シテ事實上公法發展ノ方向ハ、Dicey 一派ノ説如何ニ拘ラズ、常ニ行政法特殊化ノ道程ヲ取り、殊ニ世界大戰後頓ニ發展シタル社會主義立法ハ行政法ノ異常ナル發達ヲ促スコト、ナツタ。故ニ曾テ英國行政法否認論ノ先達者トシテ盛名アリシ Dicey 教授自身スラ、1915 年 “Law Quarterly Review. Vol. XXXI, No. 122” 誌上ニ於テ “The Development of Administrative Law in England” ナル題下ニ其存在ヲ承認スルノ餘儀ナキニ至ツタ。斯クテ英國行政法ノ存在ハ最早ヤ爭フノ餘地ナキ自明ノ事實トナルニ至ツタ、ト著者ハ述ベテキル。

著者ハ、英國行政法ヲ解シテ『行政法トハ各市民及法人團體ノ權利及財産ニ對シテ行政部員ガ行使スル所ノ、司法的性質ヲ

有スル管轄權(規律ノ法)ナリ』トスル (p. 31)。故ニ著者ノ定義ハ、結局行政部ニ委任セラレタル司法權又ハ準司法權、換言セバ行政争訟事件ヲ審決スルノ權限ヲ規律スル法ヲ以テ、行政法ト做スガ故ニ、著者ニ在リテハ行政法即行政裁判法タルノ奇異ナル歸結ヲ生ズルコト、ナル。仍テ私ハ滯倫中、同教授ニ就テ此點ヲ糺シテ見タ。其際同教授モ快ク其ノ定義ノ過狹ナルヲ認メラレテ、次ノ如ク訂正セラルル所ガアツタカラ、茲ニ之レヲ附言シ置カバナラヌト思フ。即チ『行政法トハ市民各個人及法人諸團體ニ對シテ、行政部員ノ行使スル司法的性質ノ管轄權、及ビ行政部員ニ依ル法規制定ノ權限等ヲ規律スルノ法ヲ謂フモノデアル』ト。然シ再ビ問題ハ殘ルノ外ナカツタ。若シ果シテ然ラバ純然タル行政作用ヲ規律スルノ法規ハ、行政法規ニ屬セザルコト、ナルカラデアル。然シ其レ以上定義ヲ擴張スルコトハ、同教授ノ直チニ肯ンジ難キモノ、如ク、私ハ唯不同意ヲ示スノ外ナク終ツテ了ツタ。惟フニ同教授ハ叙上ノ如ク一面ニハ、Dicey 教授一派ノ行政法不存在說ヲ難ズルコト急ナリシニモ拘ハラズ、他面ニ於テハ英國行政法ノ發生乃至復活ナル現象ヲ以テ、過去約五十年間ニ於ケル法狀ノ變化ノミニ歸シ、從テ其レ以前ニハ英國ニ行政法ナカリシ又ハ全然中絶シ居リタリトノ消極說ヲ其ノ不言ノ前提トスル者タルガ故ニ、古來連綿トシテ存續シタリシ純行政作用ヲ規定スル法規ハ之レヲ所謂新規發生ノ行政法ノ定義中ニ包攝スルコトノ、論理上不可能タルヲ意

識セラル、故デアラウト思フ。サレバ此ノ限度ニ於テハ著者モ亦、不知不識ノ中ニ故 Dicey 教授ノ影響ヲ深ク蒙レル者ト謂フベキデアラウ。寧ロ Dr. R. von Gneist 及ビ彼レニ師事セシ Dr. J. Goodnow ノ如ク、虚心坦懐以テ英國行政法ガ古來ノ存在物タルコトヲ認メテ、純行政作用コソ行政法ノ主題ナリトシ、著者ノ主要關心事タル委任立法及ビ行政部裁判權ノ如キハ謂ハ、副題トシテノミ、行政法學上ノ地位ヲ有スルニ過ギザルコトヲ理解スベキデアツタト思フ。

終リニ著者ハ現ニ盛行セラル、行政部裁判制度ニ對スル批判的標準ヲ示サムトシテ、先ヅ司法作用ノ眞隨ノ奈邊ニ存スルカヲ考察シテキル。曰ク吾人ガ司法裁判所ニ依ツテ或法律の争訟ノ解決ヲ爲スノ趣意ハ、要スルニ其レガ特定ノ公正ナル手續ニ依ツテ決裁セラルベキコトヲ保證セムトスルニ在ル。而シテ斯カル手續ハ、或特種ノ心理的的技巧ト或特殊ノ性質ヲ有スル機關ヲ介シテ、一團ノ規定又ハ法理ヲ適用スルコトヲ意味シ、其所謂心理的的技巧トハ “Judicial Mind” 即チ『裁判精神』ヲ以テ成ルモノデアリ、其ノ特殊ノ機關トハ制度トシテノ裁判所デアリ、其ノ規定及法理トハ法ヲ意味スルモノデアル。之等三個ノ要素ガ適當ニ按梅接合セラレテ、始メテ其處ニ『法ニ依ル裁判』ト稱スル公正ノ法手續ガ行ハル、コト、ナル。而モ之等三個ノ中、法及ビ制度トシテノ裁判所ノ機構ニ就テハ、古來詳細ナル考究ノ試ミラレタルニ拘ラズ、其ノ心理的の成分タル『裁判精神』

ト云フ、同様ニ重要ナル裁判手續上ノ要素ニ就テハ、殆ド考究セラル・所ガ無カツタ。若シ斯カル心理的條件ノ完全ニ充タサル、コト無クバ、如何ナル善美ノ制度モ良法モ結局無爲ニ歸スルノ外ハナイ。仍テ著者ハ本書中、特ニ此處ニ萬幅ノ意ヲ注イデ遺漏ナキ考察ヲ試ミテ居リ、且其限度ニ於テ著者ハ偉大ナ貢獻ヲ英國法學ニ寄與シテキルモノデアルト信ズル。

斯クテ著者ハ現行行政部裁判制度ノ批判ニ際シテモ、要ハ其ノ争訟裁決ノ任ニ當タル機關ガ行政部共レ自體又ハ其レニ附屬スルノ機關タルカ、或ハ舊來ノ司法機關若クハ其レニ類似ノモノタルカ否カニ存セズ、寧ロ叙上ノ如キ心理學的要素ノ自由ニ作用セシメラレ居ルカ否カニ懸ルコト多シトスル。蓋シ吾人ガ從來司法部ニ對シテ有シタル尊信ノ念モ、畢竟スルニ裁判所ガ公正ナル司直ノ精神ヲ以テ争訟ヲ決裁ストセラル、ガ故デアアル。從テ現ニ盛行セラル、行政部裁判制度ニ對シテモ、徒ラニ揉手憂慮スルガ如キハ無益ニシテ、寧ロ吾人ハ進ムデ、之等行政部裁判機關ガ果シテ公正ナル裁判ノ精神的要素即チ司法手續上ノ心理的技能ヲ具備シ居ルヤ否ヤ、若シ之レ無シトセバ如何ナル方法ニ依ツテ、斯カル心理的的成分ヲ養成シ得ベキカヲ考慮スルコトコソ賢明ナリト述ベテキル。

(II) 第二章 概要 本章ノ目的ハ司法作用ノ一般概念ニ基調セル本質的特徴ヲ分析シテ、之レヲ基準ニ司法作用及ビ行政作用間ノ區別ヲ明ニシ、以テ既述ノ如ク現行行政裁判制度批判

ノ標尺ヲ立ツルニ在ル。著者ニ依レバ、司法作用ノ本質の特徴ハ、先ヅ何ヨリモ裁判官自身ノ地位及ビ判斷上ノ獨立ニ在ル。蓋シ裁判ノ本質的價値ハ公正ノ判斷ニ在リ、公正ノ判斷ニハ裁判官ノ地位及ビ判決活動ニ於ケル絶對ノ心理的獨立ヲ要スルカラデアル。而シテ之レガ爲メニハ後章述ブルガ如キ裁判官ノ心理的諸條件ヲ要スルコト勿論タルモ、更ニ其ハ或特定ノ外部的形式的條件、即チ制度上ノ種々ナル條件ヲモ具備スルノ必要ガアル。約言セバ裁判ノ公正ニハ、裁判所ノ精神的並ニ肉體的兩方面ニ於ケル自由ト獨立ヲ確保スベキ諸條件ヲ必要トスルノデアアル。仍テ著者ハ本章ニ於テハ主トシテ此ノ肉體的要件ヲ先ヅ分析研討シ、次デ後第五章ニ於テハ著者得意ノ心理學的方法ヲ以テ、斯カル裁判所ノ精神的諸要件ヲ究明スルコト、シテキル。

斯クテ著者ノ説ク所ニ依レバ、裁判ノ公正ヲ保ツニ必要ナル形體的條件ノ第一ハ、司法部ノ獨立ニ在ル。換言セバ裁判官ハ其ノ地位及職務ノ執行ニ就キ、判例及ビ議會法ノ外ニハ、何等ノ制御ヲモ受ケザルコトヲ要スル。例ヘバ上官ノ命令ニ服スルガ如キ。其ノ第二ハ裁判官ノ絶對免責特權ノ制デアル。即チ裁判官ハ其ノ職務ノ執行ニ關シテ生ジタル效果ニ對シテハ、何等ノ法律的责任ヲ負ハシメラル、コトナキ保證ヲ要スル。縱シムバ其レガ惡意、詐害意思又ハ收賄ニ基ク場合ニ於テスラ猶然リ。即チ判事ハ、苟モ其適法ナル管轄權ノ範圍内ニ於テハ、其ノ行爲ニ絶對無制限ノ免責特權ヲ享有スベキ者デアアル。蓋シ之レヲ

依ツテ其ノ行爲ノ效果ニ對スル心理的畏怖ニ由ル判斷ノ不公平又ハ不妥當ナルヲ防ギ得ベキヲ以テ、アル。其ノ第三ハ判事ノ廉直ヲ保持スルノ制デアル。即チ判事ニシテ係争事件ニ直接又ハ間接ノ利害關係及特定限度ノ恩怨關係ニ在ルモノヲ除斥スルコトヲ必要トス。其ノ第四ハ判事ハ其ノ審理ヲ受託セラレタル事件ニ就テハ親ラ之レガ判決ヲ下シ、他人ヲシテ代判セシメザルヲ原則トスルニ在ル。即チ司法判決ハ親判主義ヲ原則トシテ代判主義ヲ排斥スルニ在ル。其ノ第五ハ司法行爲ノ大ナル特徴ニシテ、即チ、判事ハ互ニ相争訟セル數當事者間ノ事案ヲ裁斷スルニ在ル。尤モ此争訟裁決説ハ其ノ嚴格ナル適用不可能デアアル。蓋シ所謂“Proceeding ex Parte”（一方訴訟）ノ如キハ、争訟ノ相手方ハ形式上訴訟當事者タル地位ニ立ツコト之レ無キヲ以テ、アル。其ノ第六ハ判事ハ其ノ行爲ニ就テ受動的的地位ヲ持スルコトヲ要スルニ在ル。即チ當事者ノ裁判申請アリテ後始メテ其作用ヲ開始スベキヲ要スル。蓋シ然ラザルニ於テハ裁判ヲ要求セザル者ノ上ニ之レヲ強制スルコト、ナリ、其信服ヲ得難キヲ以テ、アル。其ノ第七ハ争訟當事者ニ對スル辯明機會權ノ確保ヲ要スルコトデアル。蓋シ裁判ノ公正ハ、當事者雙方ニ對シ互ニ相手方ノ主張及抗辯ノ如何ヲ了知セシメテ、所要ノ攻撃防禦ノ手段ヲ取ラシムルニ非ザレバ、之レヲ得ル能ハザルガ故デアル。其ノ第八ノ特質ハ司法作用ガ、唯目前ノ具體的事案ヲノミ審決スルノ規定ヲ立ツルニ止マリ、抽象的概念ヲ論理的ニ展



開シテ以テ將來ノ事件ヲ律スルノ一般的规定ヲ立テザルコトニ在ル。其ノ第九ノ特質ハ、裁判所ノ裁決ガ係争ノ事件ヲ終局的ニ決定スルニ在ル。勿論下級審ノ判決ハ、上級審ニ依ツテ破毀セラル、コトアルモ、既ニ事實問題ハ陪審制度トノ關係モアリテ、通常第一審止リニ終決セラレ、法律問題ニ關スル場合ト雖モ不服當事者ノ上訴ナキ限り終決ノ效力ヲ有スルカラデアル。

(III) 第三章 概要 本章ハ専ラ現行行政部機關ノ形態の方面ノ考察ニ供セラレテアル。蓋シ前章ニ於テ分析説明シタル司法行爲ノ特質ニ照應シテ、茲ニハ行政部裁判機關ノ體的構成ノ特質ヲ述ベ以テ兩々相比較セムト欲スルガ爲メデアル。然シ著者ノ述ブル所ハ現存行政部裁判所ニ就テ逐一詳述スルニ非ズ、唯其ノ首要ナルモノニ就テ概説セルニ止マル。トハ謂ヘ本章ノ對象ハ、英國行政裁判制度ノ最モ特異ナル性質ヲ示スモノデアリ、從テ我々日本ノ學徒ニ取ツテ最モ興味アル所ニ屬スルカラ、其ノ重要ナル點ハ能フ限り之レヲ餘ス所ナク簡明ニ紹介シテ見度ヒト思フ。以下分説：——

a) 鐵道裁判所 當裁判所ハ 1873 年創設ノ『鐵道委員會』及ビ 1888 年設置ノ『鐵道及ビ運河委員會』ヲ前身トスル。孰レモ公益企業ノ一種タル鐵道業ニ對スル國家ノ統制權行使機關トシテ設ケラレタモノデアル。而シテ之等委員會ハ行政機關タルヲ本則トシ、其レニ附帶シテノミ或特定ノ行政的争訟ニ就キ、訴願受理及ビ審決ノ權限ヲ有シテキタニ過ギナカッタ。然ルニ

1921年ノ鐵道條例ハ、新タニ鐵道賃率裁判所ヲ設ケテ、鐵道ノ賃率ニ關スル一切ノ爭訟、就中其ノ公定處分ニ關スル爭訟ヲ審決スベキ權限ヲ與ヘタ。而モ法ハ之レヲ規定スルニ記録裁判所 (Court of Record) タルベシトシタ。

b) **保健大臣** 次ニ示サレテ居ルノハ保健大臣ノ訴願裁決權デアル。即チ其首要ナルモノトシテ、地方公共團體ノ一般衛生行政ニ關スル不法又ハ不當處分ニ對スル訴願、河川汚濁禁止條例ニ基ク地方公共團體ノ河川使用證明書ノ拒否ニ對スル訴願、地方公共團體ノ廢置分合ニ關スル訴願、或ハ住宅衛生ニ關スル地方公共團體ノ作爲又ハ不作爲ニ對スル訴願等之レデアル。而シテ此ノ場合最モ注意スベキハ、保健大臣ノ之等諸種ノ訴願ノ裁決ガ、多クノ場合終決的ニシテ、司法部ニ對スル之レガ不服申立ノ手段ヲ禁ジ、或ハ極度ニ之レヲ制限シテ居ルコトデアル。

c) **倫敦建築物裁判所** 著者ハ先ヅ本裁判所ノ特異ナル組織ニ就テ述ベ、其ノ管轄權ガ倫敦市内ニ於ケル總ベテノ種類ノ建築ノ新造又ハ存續等ノ許否ニ關スル行政爭訟ノ裁決ニ存スルコトヲ述ベテキル。此ノ場合ニモ亦斯カル行政部裁判所ノ事實問題ニ關スル裁決ハ、司法的出訴ニ依ツテ爭フ能ハザル終決的效力ヲ認メラレ、僅カニ其ノ法律的誤謬ノミガ、司法的の上訴ノ目的物タリ得ベキモノトセラレテキル。

d) **地方會計検査官** 地方公共團體ノ會計事務ノ執行ニ不法

ノ點アリトスル場合ニハ、地方税納税者ハ之レニ關シ地方會計検査官ニ對シテ訴願ヲ提出スルノ權利ガアル。而シテ其ノ裁決ニ不服ナル地方會計官吏ハ、之レニ關シ保健大臣又ハ高等法院ノ孰レカニ對シテ上訴スルコトヲ得ル。此場合特ニ注意スベキハ、第一審行政裁判機關タル地方會計検査官ニ對スル上級審トシテ、保健大臣又ハ高等法院ガ選擇的ニ定メラレ、行政争訟ノ上訴ニ就テハ最早ヤ通常裁判所ヤ行政機關モ全ク同格ニ看做サレテ居ルコトデアル。

e) 國營健康保險裁判所 此ハ即チ保健大臣及ビ其ノ裁決補助者タル訴願裁決機關トヲ以テ成ル。保健大臣ハ國營健康保險法ニ基キ、例ヘバ保險法ノ適用ヲ受クベキ者ノ如何、被保險者ノ釀金率如何、同法ニ據ル公認保險團體相互間、其等各團體内ニ於ケル本部及ビ支部間、或ハ其等ノ團體及ビ被保險者間等ニ發生スベキ一切ノ争訟、健康保險醫ノ不法又ハ不當ナル施療行爲ニ關スル訴願、藥劑及施療品ノ供給ニ於ケル不足又ハ不正等ニ關スル訴願等ニ就テ、所要ノ裁決ヲ爲スベキ一種ノ司法權ガ委ネラレテ居ル。而モ其ノ裁決ノ多クハ終局的決定力ヲ有シ、唯少數ノ場合ニ於テノミ、司法部ニ對スル法律的誤認ノ不服申立ガ認メラル、ニ過ギヌ。

f) 失業保險裁判所 此ハ勞働大臣及其ノ監督ノ下ニ立ツ兼職又ハ特設行政部裁判機關タル失業保險官、仲裁判斷所、及ビ失業保險審判官ノ四者ヲ以テ成ルモノデアリ、共ニ失業保險法

下ニ生ズル一切ノ行政争訟ヲ裁決スル機關デアル。而シテ之等行政部裁判機關ノ裁決ニ就テハ、一切ノ司法的の上訴手段ガ排除セラレテ居ル。即チ司法裁判ノ統制ヨリ全然獨立セル行政部裁判機關ノ適例デアル。

g) **文部大臣** 即チ文部大臣ハ各種ノ教育法規ニ基テ種々ノ行政争訟ヲ審決スルノ權ヲ有スル。其ノ最モ顯著ナル例ハ、之レヲ國內一般ニ就テ謂ヘバ、既設ノ學校又ハ懸案タル新設學校ノ要否ニ關スル争訟裁決ノ如キ、之レヲ各地方ニ就テ謂ヘバ、地方公立學校ノ經營又ハ教務ノ當否等ニ關スル一切ノ訴願ヲ審決スルガ如キ之レデアル。而モ文部大臣ハ之等各般ノ争訟ヲ始審且終審トシテ裁決スルノ權ヲ與ヘラレ、一切ノ司法的容喙ヲ排スルノデアル。

h) **商務大臣** 商務大臣ハ其ノ下僚タル瓦斯検査長官ノ作用ヲ通ジテ、例ヘバ瓦斯供給監督法ニ基ク争訟即チ瓦斯ノ發熱價ニ關スル瓦斯發熱價判定官ノ不法又ハ不當ノ判定ニ對シ、或ハ瓦斯検査官ノ不法又ハ不當ノ報告ニ對シテ、供給者タル瓦斯會社側ノ爲ニ訴願ヲ裁決スルノ權限ヲ有スル。

i) **交通大臣** 即チ交通大臣モ亦各種ノ訴願裁決權ヲ委ラレテキル。例ヘバ地方行政廳ニ依ル乗合自動車營業免許ノ拒否又ハ條件附許可ニ對スル訴願、倫敦市内乗合自動車數ガ市當該行政廳ニ依ツテ過剰ニ特許セラレ又ハ現運轉車輛數ガ過少タリトナスガ如キ訴願、地方行政廳ニ依ル車馬交通ノ不當若クハ不法

制限ニ對スル訴願、民營電氣企業ノ強制的買上處分ニ對スル訴願等各種ノ行政爭訟ヲ裁決スルガ如キ之レデアル。

j) 恩給裁判所 即チ養老保險事件ニ就テハ第一審トシテ地方恩給委員、第二審トシテ保健大臣ガ定メラレ、各々之レガ爭訟ヲ裁決スル。次ニ戰傷病恩給ニ就テハ第一審トシテ地方恩給委員、第二審トシテ恩給抗告審判所ガ設ケラレテ、各々其レガ一切ノ爭訟ヲ裁決スル。又寡婦及孤兒恩給ニ就テハ、第一審トシテ保健大臣、第二審トシテ特別審判員ガ定メラシ、各々其ノ關係爭訟一切ヲ審決スル。而シテ如上各種機關ノ裁決ハ、全ク司法的再審査ニ服サズ、事案ヲ終局的ニ決裁スルノ權ヲ有スルモノデアル。

以上 (a) 乃至 (j) ノ行政部裁判機關ハ、専ラ行政各部ノ長官又ハ其ノ直屬行政廳ガ、一種ノ裁判權ヲ委ネラレタル例ニ屬スルノデアルガ、著者ハ更ニ項ヲ改メテ全ク別種ノ行政部裁判機關ノ數例ヲ擧ゲテ居ル。而シテ其ノ特殊ナル所以ハ、嘗ニ司法裁判所ニ對シテ獨立ノ地位ニ立テルノミナラズ、更ニハ行政各部ニ對シテモ何等直屬ノ關係ヲ採ラザル點ニ存スル。即チ下ノ如シ。

a) 發明者補償委員會 本委員會ハ 1914—1918 年ノ世界大戰當時、各種發明特許權ヲ強制徵用シタル爲メ、之レガ補償ニ關スル一切ノ事案ヲ審判スル爲メニ設ケラレタモノデアル。著者ハ本委員會ガ行政部裁判機關トシテ占ムル其ノ特異ナル地位

及ビ性質ニ就キ興味アル説明ヲ附シテキル。

b) **法務官及特許抗告審判** 特許審判ニ就テハ先ヅ第一審トシテ特許及ビ意匠登録局長官ガアル。發明特許ニ就テハ特許申請者又ハ其ノ他ノ利害關係者ヲシテ、同長官ノ特許許否ノ裁決ニ對シ司法大臣及ビ訟務大臣即チ所云行政部法務官 (Law Officers) ノ許ニ抗告審判ヲ爲スノ權利ヲ得セシムルニ止マリ、其レニ對スル司法的の上訴手段ヲ取ル能ハザラシメテキル。而シテ此ノ際注意スベキハ、特許局長官ハ商務大臣ノ管下ニ屬スルニ拘ラズ、其ノ裁決ニ對スル不服申立ハ全然別系統ノ司法省ノ許ニ爲スペシト定メテキルコトデアル。

c) **戰時補償裁判所** 此ハ 1914—1918 年ノ世界大戰中ニ於ケル軍事的非常處分ニ依ツテ蒙リタル個人ノ權利又ハ利益ノ損失ヲ補償スル爲メニ設ケラレタモノデアツテ、所謂戰時補償委員會ノ後身デアル、其ノ他ニモ猶、被特許營業者又ハ其ノ他ノ公益企業者ガ世界大戰中ノ、非常行政處分ニ依ツテ蒙リタル損失ノ補償問題ヲ裁決スベキ國防委國會及ビ海軍省交通調停局、或ハ家屋建造獎勵法ニ基ク地方公共團體ノ歳入不足ニ關シテ地方公共團體ト保健長官トノ間ニ起ル一切ノ争訟ヲ、裁決スルノ權限アル仲裁判斷所ノ如キ、一種ノ行政部裁判機關ニ就テ著者ハ簡單ナ説明ヲ加ヘテキル。

著者ハ結語トシテ本章ノ末尾ニ數個ノ興味アル説明ヲ加ヘテキル。其ノ一ハ叙上ノ如キ各種行政部裁判所ノ司法的活動ニ對

スル、司法裁判所ノ態度如何ノ問題デアル。著者ハ先ヅ之レヲ沿革的ニ述ベテ曰ク、第十九世紀四分ノ一末葉ニ於ケル司法裁判所ノ態度ハ、行政部裁判ノ制ヲ嫌忌シテ之レヲ否認スル態度ニ出デ、或ハ尠クモ其自由ナル活動ヲ抑フル爲メ之レニ對スル司法統制權ヲ極度ニ擴張セムトシタルモ、第二十世紀殊ニ 1911—1915 年ニ互ル兩度ノ大事件、即チ “The Board of Education v. Rice” 及ビ “The Local Government Board v. Arlidge” ニ於テハ、其ノ態度一變シテ、一方行政裁判權ノ範圍及ビ效力ヲ擴大シ、他方ニハ從テ司法裁判所ノ行政裁決ニ對スル再審査權ノ範圍ヲ甚シク自制限スルコト、ナツタ。斯クテ爾來行政部裁判機關ハ、特ニ法ノ明文ナキ限り及ビ當事者ニ對スル辯明機會權ノ否認ヲ理由トスル場合ノ外、一切ノ司法的容喙ヨリ自由ニ擔任ノ司法作用ヲ爲シ得ルコト、ナツタ。即チ行政部裁判ノ制ハ爾來確固タル法ノ承認ヲ獲得スルコト、ナリ、不動ノ地位ヲ英國公法ノ上ニ把持スルコト、ナツタ譯デアル。

次ニ著者ハ如上各種ノ行政部裁判機關ヲ總稱スルニ最モ適ハシイ詞トシテ “Administrative Tribunal” 即チ『行政部裁判所』ナル名辭ヲ擧ゲテ居ル。蓋シ其等ハ各々程度ノ差コソアレ、孰レモ行政部ニ直接間接隸屬スル所ノ機關ニシテ、而モ從來司法裁判所ノ管轄ニ屬シタリシ又ハ當ニ屬スベキ事項ニ就キ、之レガ審決ノ權ヲ委ネラレテキルカラデアル。

固ヨリ著者ハ本章ノ説明ノ進行中、前章ニ擧ゲタ司法裁判所

ノ形態的特質ト茲ニ掲ゲタ行政部裁判所ノ其レトノ比較ニ於テ稍疎ナル感ジヲ與ヘテキルトハ謂ヘ、現行行政部裁判機關ノ首要ナルモノヲ拉シ來タツテ、之レガ特徴ヲ簡潔ニ説明シ、一讀直チニ讀者ヲシテ英國行政部裁判ノ鳥瞰的觀察ヲ得セシメテ居ルト思フ。

(IV) 第四章 概要 本章ニ於テハ自治裁判所 (Domestic Tribunal) ナル題下ニ、各種ノ私的職業團體其ノ他ノ學藝的及ビ社交的團體ガ其ノ構成員タル者又ハタラムトスル者トノ間ニ於ケル一種ノ行政的爭訟ヲ裁決スルノ權限アルコト、其ノ權限ノ範圍及ビ其ノ效力ノ限界如何、並ニ之レニ對スル司法裁判所ノ統制權ノ問題等ヲ取扱ツテキル。本問題ノ研究モ亦、英法上從來比較的乏シカリシ學問的作業ニ對スル著者ノ獨創的ナ貢獻ノ一デアツタ。

著者ノ所謂自治裁判所 (勿論英國裁判所ノ判例ニハ屢々此ノ“Domestic Tribunal” ナル語ハ現ハレテ居ル) ノ首要ナルモノトシテハ、例ヘバ醫師教育及登録總會 (The General Council of Medical Education and Registration) 特許辯理士會 (The Institute of Patent Agents), 倫敦株式取引所委員會、法曹會訴狀士懲戒委員會、及ビ“Inns of Court” 並ニ助産婦中央理事會 (The Central Midwives' Board) 等デアル。之等ハ孰レモ或ハ其ノ構成各員ニ對シテ、其ノ専門的業務ノ執行ニ關スル犯罪又ハ非行等ヲ理由トシテ、其ノ團體員タル資格ヲ剝奪シ且其



ノ専門的業務ニ爾後從事スルノ權ヲ褫奪シ、或ハ新タニ團體員タラムト欲スル者ニ對シ其ノ加入ノ許否ヲ法的爭訟ノ形式ヲ以テ決裁シ、或ハ其ノ團體ノ事務執行ノ任ニ當タレル役員ノ任免及ビ監督作用等ニ就テ生ズルコトアルベキ一切ノ爭訟ヲ裁決スルノ權ヲ、法律上認メラレテ居ル。

司法裁判所ハ本則トシテ之レニ容喙セバ、即チ其等ノ各構成員ノ財産權(廣義ニ於ケルモノ、故ニ營業權ノ如キモ含ム)ニ關スル場合ノ外、其等ノ裁決ニ對シテ司法統制ヲ行ハスコト、ナツテ居ル而シテ財産權ニ關スル場合ト雖モ、唯次ノ如キ數個ノ理由アル場合ニ於テノミ、司法的審査ガ認メラル、ニ過ギヌ。第一、其等自治裁判所ガ所與ノ爭訟ヲ裁決スルニ當ツテ、當事者ニ對シテ辯明ノ機會ヲ與ヘズ、專斷ニ判斷ヲ下シタルトキ、換言セバ普通法ニ所謂『自然的正義』(Natural Justice)ノ原則ニ反シタルトキ。第二、其等各團體ノ適法ナル權限ノ範圍ヲ踰越シタルトキ。第三、惡意又ハ收賄等ノ下ニ裁決シ、或ハ前審干與者ガ其ノ抗告審判ニモ參與シタルコトヲ理由トシテ其ノ判斷ノ不公正ヲ攻撃スルトキ等即チ之レデアル。

(V) 第五章 概要 本章デハ著者ノ所謂『裁判精神』(Judicial Mind)ガ詳述セラレテ居ル。本章ハ著者ノ心理學的方法ヲ十二分ニ發揮セル箇所デアツテ、著者ハ之レニ依ツテ一方司法裁判ノ心理學的基調ヲ逐一分析説明シ、他方現行行政部裁判所ノ不備ナル點ヲ批判シテ、殆ド餘ス所ナシノ感ガアル。然シ

斯カル心理學的ノ機微ニ觸レタ説明ハ、本稿ノ如キ單純ナ紹介文ノ到底爲ス能ハザル所デアリ、眞實詳密ノ研究ハ親シク原著ニ接シテ熟讀翫味スルニ非ザレバ、其ノ深イ好味ノ存スル所ヲ解スルコト不可能デアル。仍テ以下ニハ唯其ノ重要ナル二三點ニノミ言及シテ之レヲ讀者ノ興味ノ前ニ供シタイト思フ。

著者ニ依レバ司法裁判ノ本質的要素ノ一ハ、實ニ其ノ手續ノ特殊ナル構成ト之レガ運行ニ必要ナル心理作用ノ特異ナル性質ニ在ル。斯クテ例ヘバ前記 Arlidge Case ノ如キニ於テ行政部裁判ニ必要ナル心理的要素トシテ、Lord Ealdane ハ『裁判官的責任觀念』ヲ、Lord Moulton ハ『裁判官的氣質』又ハ『裁判的精神』ヲ強調シテ、行政部裁判ノ公正及ビ妥當ヲ確保セムトシテキル。Sir Claud Schuster モ亦地方行政委員會ニ於テハ、普通ノ行政作用ニ就テスラ此ノ『裁判精神』ノ必要ヲ力説シテキル。然シ之等博學ナル判事諸公及ビ法務官ハ、其等ノ心理的内包ニ就テハ何等語ル所ガ無イ。仍テ著者ハ非常ノ努力ヲ以テ、其ノ心理學的要素ヲ分析解剖シ、以テ、現行行政法及ビ行政部裁判制度ノ價值如何ヲ解決スベキ標準ヲ得ムトシテキルノデアル。

著者ノ説ク所ニ依レバ司法裁判ノ心理學的内容ハ、(a) 先づ第一ニハ“Consistency”即チ『調和』又ハ『均齊』ヘノ意向デアル。凡ベテ人ハ其ノ行爲ノ規律ニ調和アルコトヲ意欲スル者デアル。殊ニ複雑ナル社會ニ於テハ此ノ調和又ハ均齊アル規

律ノ意欲ハ普遍的デアル。蓋シ例ヘバ汽車ノ運轉、租稅ノ賦課ノ如キ複雑ナル行政的活動ハ、其ノ事ニ從事スル各員ガ、他員ノ活動モ特定ノ整調セル規律ニ從ツテ行爲スベシトノ豫想ヲ爲シ得ルニ非ザレバ、到底不可能タラザルヲ得ヌカラデアル。就中複雑多岐ニ互ル生活事件ニ面シテ其處ニ秩序アル行爲ノ規範ヲ設定スベキコトヲ任トスル裁判活動ニ在リテハ、殊ニ斯カル心理活動ノ調和即チ各個具體的事案ノ意義・性質及ビ效果等ニ適應シ且同種同同意義ノ各事件ノ間ニ均齊アル判斷ヲ施スコトガ、最モ重要デアル。然シ調和ハ決シテ劃一ヲ意味スルモノデ無イ。否、全然反對物デアル。詳言セバ調和トハ、第一ニハ時ヲ異ニシテ同一種類ノ事件ニ下サレタ諸判決間ニ彼此相均整セル關係アリヤ否ヤ、第二ニハ時ヲ同ジクシテ異種類ノ事件ニ下サレタル諸判決間ニ彼此相異ナルベキ理由タル法關係アリヤ否ヤ、第三ニハ時ヲ異ニシテ異種類ノ事件ニ下サレタ諸判決ノ間ニ彼此相區別セラル、ニ足ル理由トシテノ法關係アリヤ否ヤヲ規定スル機能デアル。月曜日ニ犯罪タリシ行爲ハ火曜日ニ於テモ等シク犯罪デナケレバナラス。場所的ニ云フモ Surreyニ於テ拘束力アル法規ハ、均シク Northumberlandニ於テモ等シク適用サレナケレバナラス。英法ノ一大特質タル先判決例尊遵ノ慣行モ、之レ亦斯カル調和美ヲ欲求スル英國々民性ノ結果デアル。著者ニ依レバ現行行政部裁判所ニ於テモ、此ノ種ノ調和ヲ破壊スルガ如キ心理活動ノ證ハ、未ダ曾テ之レ無シトサレ

テキル。

(b) 其ノ第二ハ Equity 『平等』 又ハ 『均等』 ヘノ意向デア  
ル。即チ判事ハ其ノ目前ノ事案ヲ取扱フニ公平無私ノ精神ヲ以  
テセネバナラス。換言セバ特定ノ法的範疇ニ該當スル凡ベテノ  
事件ハ、之レヲ平等ニ處決スルノ意向アルコトヲ要スル。蓋シ  
近代の意義ニ於テ解セラル、所ノ、法規ニ依ル裁判ノ真義ハ、  
實ニ普遍的平等ノ精神即チ全市民ヲシテ法ノ前ニ平等ノ取扱ヲ  
受ケシムルコトニ存スルカラデア。而シテ眞ノ平等ヲ實現セ  
ム爲メニハ、判事ハ各事件ニ於ケル關係事實ノ存否及ビ異同ヲ  
明確ニスルノ心理的の手續ヲ怠ツテハナラス。蓋シ異ナル事案ヲ  
平等ニ取扱フ程、不平等ノ取扱之レ無キヲ以テバアル。斯クノ  
如キ平等ノ精神ハ實ニ司法裁判ノ範域ニ於テノミナラズ、行政  
作用就中行政部裁判ノ範域ニ於テモ作用セシメラレネバナラ  
ス。而シテ現行行政部裁判機關ハ、此ノ平等ノ意向ヲ有スルノ  
點ニ於テモ敢テ司法裁判所ニ劣ルト信ズベキ理由ナシト著者ハ  
告ゲテキル。

(c) 其ノ第三ハ Certainty 即チ 『確實』 ヘノ意向、換言セバ  
判決規範及ビ判決活動ヲ律スル法規範ノ確實ヲ期スルコトガ、  
司法裁判ノ今一ツノ心理的の基調デナケレバナラス。其ハ行政部  
裁判ニ就テモ亦等シク肝要デア。蓋シ如何ニ法ノ適用ガ均齊  
及ビ公平ノ美ヲ得ムトスルモ、何ガ法ナリヤ及ビ何ガ判決活動  
ノ規範ナリヤヲ明確ニセザル以上、正義ノ目的ハ實現不能ニ歸

スルカラデアアル。今此ノ點ニ就テ行政部裁判制度ヲ見ルニ、從來英國行政府ハ其ノ司法的活動ニ關スル法の規範ノ公示ヲ好マズ、既ニ其レガ永年ノ慣行ニ依ツテ確然タル法規ト何等選ブ所ナキニ達セル場合ニ於テスラ猶其レガ公平ヲ忌ムノ傾向ニ在ル。仍テ現行行政部裁判制度ノ缺陷ノ一トシテ著者ハ、其ノ判決活動ノ不確實ナルコトヲ指摘シテキル。

(d) 其ノ第四ハ “The Rule of Reason” 『判決理由ノ規定』即チ之レデアアル 換言セバ判決理由ノ表示ヲ要ストイフコトデアアル。法ガ一度ビ其ノ確定性ヲ得ルニ至ルト、其ハ嘗ニ特定ノ法規ヲ明確ニ設定スルノミナラズ、更ニハ其ノ法ヲ具體的事件ニ適用スルノ任ニ當タル裁判官ヲシテ其ノ判決理由ヲ表示スベキコトヲ要求スルコト、ナル。蓋シ判事ニシテ其ノ判決ニ理由ヲ附サズ唯單ニ其ノ結論ノミヲ表示スルニ止マルトセムカ、法ノ確定性ハ判事ノ恣意ニ依ツテ自由ニ搔キ亂サル、コト、ナルガ故デアアル。然ルニ現行行政裁判機關ハ、多ク其ノ判決理由ヲ表示スルノ義務ナク、從テ其ノ裁決ハ裁決者ノ恣意ニ基クモノタラザルカノ公疑ヲ惹起シ、延テ行政部裁判機關ノ公衆ニ對スル威信ヲスラ甚シク害スルニ至ツテ居ル。之レ亦英國行政法ニ於ケル缺陷ノ一デアアル。

(e) 其ノ第五ハ “The Technique of Impartial Thought” 即チ『公平ナル思考ノ技術』デアアル。文化ノ發達ニ伴レテ社會生活ノヨリ細微ニ分化スルヤ、其處ニ發生スル各般ノ事象モ、夫

々各分野ノ生活事象ニ關スル特殊ノ知識ト經驗トヲ有スル者ニ非ザレバ、之レヲ適正妥當ニ處決スル能ハザルニ至ルコト、之レ事物必然ノ理デアル。殊ニ法律的事案ノ如キ特種世界ノ事象ノ如キハ、Sir Edward Coke ガ其ノ對國王ノ論議ニ於テ頑強ニ主張シタル如ク、各人自然ノ理性ニ依ツテ解決セラルベキモノニ非ズシテ、法學的特殊技能即チ人爲的知識ト技巧トニ依ツテ、始メテ公平ニシテ機宜ナル處斷ガ期待セラレ得ル。即チ各判事ハ其ノ個人的感情ヲ抑ヘテ、確然タル理由ガ組織的ニ闡明セラル、迄ハ、何等ノ判斷ヲモ差控ユルノ技能、換言セバ各判事ノ自然的ナル主觀的判斷ヲ排シテ、客觀的即チ非自然的——人爲的判斷ヲ爲スノ技能ヲ具存シナケレバナラス。著者ハ此點ニ就テハ現行行政部裁判機關ノ批判ヲ全然缺如シテキル。

(f) 其ノ第六ハ “The Artificial Reason of Law” 即チ『法律上ノ人爲的推理』デアル。同一ノ生活現象モ之レヲ處理スル目的ノ相異ニ從ツテ、相異ナリタル諸種ノ方法ヲ生ズル。學問ノ分化的發達モ要スルニ斯カル方法論的分化ノ結果ニ外ナラス。法モ亦一個ノ特殊科學ノ對象ニ屬シ、從テ其ハ或獨特ノ取扱方法ヲ以ツテ處置セラル、ニ依ツテ、其ノ特殊ナル目的ヲ實現シ得ル。然リ法律家ハ吾人ノ生活事象ヲ其ノ在ルガ儘ノ形相ニ於テ處理セズ、法網ナル篩ニカケテ選擇シ、之レヲ適宜ノ範疇ニ分類シ、然ル後此ノ分類ニ基テ各個ノ事案ヲ處斷スルヲ任務トスル。Gény 氏ノ所謂『法律ノ坩堝』ニ入レテ、普通ノ事象ヲ

法律上ノ特殊ナル形相ニ變型シテ之レガ處置ヲ爲スコトヲ任トスルモノデアアル。之レ即チ法律家ノ所謂人爲的推理デアアル。而シテ斯カル推理ニ於テ最モ重要ナルハ、法的範疇ニ從ツテ爲ス生活事象ノ分類デアアル。其ノ最モ首要ナル效用ハ次ノ如キ點ニ存スル。即チ斯カル分類ハ先ヅ裁決スベキ爭訟ニ關係アル事情ヲ可及的單純化シテ、其ノ處理ヲ容易ニ爲シ、次ニ其ハ首要ナル爭點ノ上ニ裁決者ノ注意ヲ集約シテ之レガ記憶ヲ確實ニシ、重要ナラザル事項ノ記憶ニ煩サル、コトヲ防ギ、最後ニハ主觀的標準ニ依ル個別的差異ヲ排シテ客觀的標準ニ依ル種別的類同ヲ根據トスルガ故ニ、裁判ノ執行ヲ客觀化スルノ利ガアル。

(g) 其ノ第七ハ “The Exclusion of Imponderables” 即チ『不可量物ノ除外』之レデアアル。司法作用ハ前述ノ如ク客觀的一般的範疇ニ依據スル法律事象ノ處理ヲ以テ其ノ特長トスル。從テ斯カル一般的範疇ニ各場合ノ具體的事件ヲ攝入スルニ當リテハ、其ノ共通的成分ノミヲ採ツテ些末ノ成分ハ之レヲ切捨ツルコト、ナルノ外ハナイ。蓋シ法ハ各個人又ハ各個ノ事象ヨリモ、更ニ大ナル又屢々比較シ得ベカラザル高大ノ目的ヲ有スルモノデアリ、且此ノ目的ガ公善ヲ助成スルニ必要ナル限り、斯カル一般範疇的處理、從テ不可量的成分ノ切捨モ是認セラルベキデアアル。然シナガラ此ノ種ノ方法ハ、他ノ凡ユル方法ニ於ケルト等シク、其ノ長所ハ亦其ノ短所デモアル。蓋シ斯カル取扱ハ、事物ノ共通要素ヲノミ抽出シテ、具體的事物總體ノ生命

ヲ其等共通成分ノ爲メニ亡失セシムルノ缺陷アルヲ免レヌカラ。況ヤ不可量の成分ガ其等共通の成分ニ比シテ、事案ノ意義ヲ左右スベキカノ劣ラザルコト稀ナラザルヲヤ。而シテ斯カル司法裁判ノ方法上ノ缺陷ハ、急激ナル生活事象ノ變化ヲ見ル現代ニ於テハ殊ニ甚シイモノガアル。斯クテ新シキ生活事象、即チ從來司法裁判所ガ不可量物トシテ排除シタル生活事象ノ法的需要ヲ充タスニ必要ナル裁判の方法ガ必要トナル。現行行政部裁判制度モ要スルニ斯カル需要ヲ充タサムガ爲メニ發生シタモノデアアル。

(h) 其ノ第八ハ “Judicial Discretion” 『司法的自由裁量』デアアル。司法作用ハ叙上ノ如ク特定ノ法的範疇ニ依據スルノ作用ナルモ、其ハ直チニ各裁判官ニ對シテ自由裁量ノ餘地ヲ否定スルコト、ハナラヌ。其ノ各範疇ノ内部ニ於テハ、猶相當ノ自由ナル裁量權ヲ認メラレ得ル。而シテ自由裁量ノ意義ハ説ク人ノ異ナルニ依ツテ多少ノ差異ナキ能ハザルモ、畢竟スルニ事物ノ眞僞・正邪・形骸ト實體・衡平ト表面的口實又ハ體飾トノ間ニ區別ヲ見出ス判斷ノ自由ヲイヒ、其ノ行使ハ條理ト正義ニ依據シテ、私的意見ニ依ラズ、法ニ依準シテ氣分ニ準據セザルコトヲ要スルモノデアアル。而シテ之レガ爲メニハ尠ナクモ次ノ如キ三個ノ心理的條件ヲ守ルコトガ必要デアアル。即チ第一ニ自由裁量權者ハ裁量ヲ爲スニ當ツテ何等ノ豫斷又ハ先入主的見解ヲ有ス可カラザルコト、第二ニハ合目的ニ裁量スルコト換言セバ其



ノ自由裁量權ヲ賦與シタル當該法規ノ目的ニ適合スベキコト、第三ニ裁量權者ノ裁量動機ハ公明ニシテ、且裁量事項ニ無關係ナル外部の事情ニ由ツテ影響サル、コト無キヲ要スル。

如上ノ自由裁量ニ於ケル心理的要件ハ、嘗ニ司法裁量ニ就テノミナラズ更ニハ行政部裁判機關ノ裁決活動ニ就テモ、充タサル、コトガ必要デアアル。蓋シ、勿論現行行政部裁判制度ハ元來司法裁判所ノ手續嚴酷ニシテ其ノ活動ニ彈力ヲ缺キ各個ノ具體の事案ニ對スル具體の正義ノ實現ヲ過リタル爲メ、斯カル弊害ヲ匡救スルノ一策トシテ案出セラレタルモノニハアレド、其ノコトハ直チニ行政部裁判機關ノ裁量活動ヲ絶對無制限ニ放任スベキコトヲ、必然的ニ意味スルモノデハ無イカラデアアル。否、相當ノ制禦ヲ加フルコトコソ却ツテ其ノ裁量權ノ適正妥當ナル行使ヲ確保スルノ途デアアル。

(i) 最後ニ著者ハ“*The Good Judge*”即チ『良裁判官』タルノ心理的要件トシテ、頗ル興味アル點ヲ逆說的筆致ヲ以テ述ベテキル、即チ裁判官ハ既述ノ如ク一面自己ノ主觀的偏見ハ之レヲ極力抑制スルノ義務アルモノニハアレド、他面ニハ又或一種ノ偏見ヲ持スルヲ要スルノ地位ニ在ルモノデアアル。即チ例ヘバ所謂『公共政策』(Public Policy)ノ解釋及適用ニ際シテハ、彼レガ所屬スル社會ノ大多數者ニ依ツテ抱持サル、一種ノ社會的偏見ニ副フテ事案ノ判斷ヲ爲サルヲ得難イ境遇ニ在ル如キ之レデアアル。例ヘバ Byron ノ有名ナル“*Don Juan*”ハ、其レガ出

版當時ノ英國ニ於ケル道德・宗教及政治ビ制度等ニ對スル極度ノ侮蔑ヲ表現セルモノタリシ爲メ、其レニ對スル著作権侵害ノ法律的救済ノ請求申立ガ、時ノ裁判所ニ依ツテ拒否セラレ從テ其ノ裁判ノ結果ガ當時名判決トシテ社會ニ迎ヘラレタル如キ、叙上ノ逆說の事理ヲ雄辯ニ物語ルモノデアル。斯クテ良判事タル一ノ要件ハ、自己一流ノ主觀的偏見ハ避クルヲ要スルモ、其ノ時ノ社會一般ニ普通セル公共政策的偏見ニハ、可成的依準スルコトヲ必要トスル。之レ必要ノ命ズル事實デアル。但シ此ノ事ハ、決シテ判事ガ傾向的ナル時事問題ニ關スル彼等ノ具體的意見ヲ、目前ノ事案ノ裁決ニ影響アラシムベキコトヲ認ムルモノデハ無イ。

良判事タル今一ツノ要件ハ、判事ハ舊ニ既成秩序ノ受託者タルノミナラズ、更ニハ社會ノ進歩的の要請ヲ充タスニ忠實タルコトヲ要スル點ニ在ル。先キノ要件ニ就テ述ベタルガ如キ、抽象的の意義ニ於ケル一般社會的偏見ヲ理解シ體得スルコトヲ良判事タルノ一要件ナリトスルコトハ、必ズシモ判事ヲシテ過去ノ代辯者タラシムルノ意デハ無イ。既存秩序ノ忠實ナル執行ト矛盾セザル限り、將來ノ要求ヲ適當ニ充タス技能アルコトモ亦良判事タル他ノ要件デアラネバナラス。現行行政部裁判制度ノ發生モ、一面ニ於テハ司法裁判官ガ徒ラニ舊秩序ノ保維ニノミ急ニシテ社會ノ進化的の要請ニ盲目タリシニ由ル。然シ著者ハ附言シテ曰ク、現行行政部裁判機關ノ中ニモ、猶此ノ要件ヲ缺クモノ

絶無トハ謂難イト。

(VI) 第六章 概要 本章ニ於テハ “Trial by Whitehall” 即チ『行政各部ニ依ル争訟ノ審判』ナル題下ニ、既述ノ如キ行政部裁判機關ノ發生原因ヲ探リ及ビ其ノ利害得失ヲ評量シ、次デ過去半世紀ニ亙ツテ英國ニ發生シタル行政法ノ價值如何ヲ批判シ、最後ニ著者ハ行政裁判制度ニ對スル數個ノ興味アル改革案ヲ提出シテキル。

(a) 行政法及ビ行政部裁判所發達ノ原因。

茲ニ於テ特ニ注意スベキハ、著者ガ既述ノ如ク行政法ヲ以テ『行政部員ニ依ル司法的性質ノ管轄權』ノ行使ヲ規律スベキ一團ノ法規ナリト解スルガ故ニ、本節ニ於テ著者ガ行政法ノ發達原因ト做ス所ノモノハ、取りモ直サズ行政部裁判法ノ其レニ相當スルコトデアル。即チ著者ハ此處ニ於テモ亦、行政法ト行政裁判法トヲ混同スルノ過ヲ犯シテキル。苟モ英法上、“Substantive Law” and “Adjective Law” ノ區別ガ認メラル、以上、廣義ニ謂フ所ノ行政法モ之レヲ “Substantive Administrative Law” and “Adjective Administrative Law” ノ二者ニ區別スベキガ、論理上妥當デアリ、實際上ノ利便モ亦決シテ尠クナイト思フ。然シ此點ハ大陸諸國及ビ我國ノ行政法學ニ就テモ謂ヒ得ルコトデアルカラ、唯英法學者ノミノ過トシテ之レヲ責ムルコトハ、酷デアラネバナラヌ。

著者ニ依レバ英國行政法ノ發生原因ハ、先ヅ第一ニハ從來ノ

個人主義的不干渉主義ノ立法政策ガ漸次、社會主義的國家ノ干渉主義立法政策ニ移行シタル結果、國權就中行政權ノ活動範圍擴大セラレ、且從來ノ司法裁判所ハ個人主義法理ニ親シクシテ個人ノ利益保護ニノミ專意シ、新タニ高揚セラレタル公益本位ノ社會主義立法ニ無理解ニシテ其ノ執行ニ適セザル爲メ、法ハ之レガ執行ニ最モ親近ノ關係・知識・經驗等ヲ有スル行政各部ノ特殊機關ニ其ノ執行ノ任ヲ委ヌルコト、ナツタ。斯クシテ行政部ニ於ケル司法的活動ハ年ト共ニ擴張セラレ且之レガ活動ヲ規律スル法規モ逐次集積セラレテ、今日見ルガ如キ行政法ノ發達ヲ導クニ至ツタノデアル。

其ノ第二原因ハ、從來ノ司法裁判手續ガ、勿論慎重審議ヲ保證スルニハ適スレドモ、其ノ簡易ナル進行ヲ妨ゲ且訴費ノ嵩ミモ甚シキガ故ニ、屢々行政法ノ目的トスル正義ノ實現ヲ阻碍スルコト、ナツテキタ。仍テ其ノ手續ノ簡易敏速ヲ主意トシ其ノ訴費ノ全免又ハ最少限度ヲ保證スル行政部裁判ノ制ガ、斯カル從來ノ缺陷ヲ補正スルモノトシテ設ケラル、ニ至ツタノデアル。

第三ノ原因ハ以下ノ如キ事情ニ基ク。即チ過去約半世紀程ノ間ニ於テ逐年劇増シ來リタル行政法上ノ諸種ノ爭議ハ、其ノ性質ニ於テハ複雑多岐其ノ數ニ於テハ頗ル夥多ナリシ爲メ、左ナクトモ事務過剩裁決滯滯ニ陥リツ、アル司法裁判所ノ到底受理シ得ル所デ無カツタ。サレバ此ノ意味ニ於テモ亦、新タル行政

裁判機關ヲ設ケ又ハ少ナクトモ從來ノ純行政機關ニ對シテ、之レガ裁決權限ヲ委ヌルノ必要ガアツタノデアル。

第四ノ原因ハ實際上凡ベテノ行政部門ニ互ツテ新タナル標準立法ガ盛行セラル、ニ至ツタコトニ在ル。即チ今ヤ殆ド總ベテノ行政法規ハ、往時ノ條例ニ見ラル、ガ如ク『絶對的ニ確定シ從ツテ其レ自體自足の内容』ヲ有スルモノニ非ズシテ、唯相對的ニ確定セラレアルニ過ギズ、從ツテ其ノ内容ハ行政權者ノ補充立法及補充的解釋ヲ俟チテ始メテ具體的ニ實行セラレ得ルガ如キ性質ノモノトナツテキル。斯クテ此ノ種相對立法ノ盛行ハ、必然的ニ行政部員ニ依ル立法就中司法的活動、即チ斯カル法規ノ内容如何トイフ法律問題ノ裁決ニ必要ナル活動ヲ必要ナラシメ、遂ニ之レガ專任又ハ兼任ノ行政部裁判機關ヲ擡頭セシムルニ至ツタノデアル。

#### (b) 現行行政部裁判制度ノ長所

著者ニ依レバ現行行政部裁判制度ハ大略次ノ如キ長所ヲ有スル。即チ其ハ争訟當事者ノ訴訟費用ヲ多額タラシメザルコト、次ニハ行政争訟ノ裁決ヲ敏速タラシムルコト、第三ニハ行政部裁判機關ノ構成ニ、行政各部ノ當該専門知識及經驗アル官吏又ハ民間ノ専門家ヲ信用シテ、各特殊行政争訟ノ性質ニ應ズル専門家裁判ノ制ヲ打チ樹テタルコト、第四ニハ從來司法裁判所ニ於テ行ハレタルガ如キ嚴酷窮屈ニシテ複雑ナル手續規則ニ煩サル、コトナキヲ以テ、行政争訟ノ裁決ヲ變通自在タラシメ却ツ

テ實體的眞實ニ近クコトヲ容易タラシメタルコト。以上之レヲ要スルニ行政部裁判ノ一般的長所ハ、叙上ノ如キ各種ノ長所アル結果トシテ、特ニ社會主義立法政策ノ目的ヲ最モ簡易適正ニ實現シ得ル機關トシテ作用シ得ルノ點ニ存シ、之レニ依ツテ公益本位ノ行政法規ノ執行ヲ、個人主義法理ノ疇域ニ閉テ籠ツテ私權保護ニノミ没頭シタル司法裁判所ヨリ引キ離シ得タルコトニ存スル。

### (C) 現行行政部裁判所ノ短所

著者ガ其ノ短所トシテ舉ゲル所ヲ觀ルニ、第一現行行政裁判所ノ争訟裁決手續ハ公開主義ヲ原則トセズ、仍テ多クノ場合口頭辯論主義ヲ捨テ、書面審理主義ヲ採リ、其ノ審理手續ニ公衆ヲ接近セシメズシテ秘密裁判ニ親シミ、或ハ判決理由ヲ附セズシテ單ニ裁決ノ斷案ノミヲ公示スルニ過ギズ、又裁決例ノ公表ヲ爲サズ、仍テ公衆ニ將來ニ於ケル同種ノ事件ニ關スル裁決ノ如何ヲ豫測スル能ハザルニ至レルコト。第二ニハ既述ノ如ク行政部裁判機關ノ構成ハ、概ネ行政各部ノ専門的知識アル分子ヲ以テセラル、トハ謂ヘ、其ハ直チニ法律的知識及ビ經驗アルコト、換言セバ法律的意義アル問題ヲ適當且巧ミニ解決シ得ルノ技能アルコトヲ保證スルモノニ非ズ、否多クノ場合之レヲ缺如スルヲ通常トスルガ故ニ、行政争訟上ノ純法律問題ハ勿論、事實問題等ノ裁決モ甚ダ拙劣ナルコト尠クナイ。而シテ此ノ短所ハ、現行法ガ訴費ノ嵩ムヲ惧レテ職業的辯護人ヲ行政部裁判所

ノ法廷ニ入り込ムコトヲ禁ジ居ルガ爲メ、一層甚シクセラレアルコト等デアル。

然シナガラ一般世上ニ現行行政部裁判制度ノ短所トシテ想像セラル、モノ、即チ其ノ判断ノ公平ガ純行政的考慮及ビ政治的影響ニ依ツテ害セラル、ニ至ルト謂フ點ハ、著者ノ見解ニ依レバ寧ロ一箇ノ杞憂ニ過ギヌ。却ツテ實際上ハ行政部裁判所ガ其ノ判断ヲ公平ニ保タムトスル結果、或場合ニハ其ノ機關ガ併用スル他種ノ權限ノ行使ヲ控止スルニ至ルガ如キコトスラアル。例ヘバ國營保險委員ガ、其ノ争訟裁決ニ於ケル判断ノ公平ヲ保タムトシテ、其レト等シク重要ナルベキ純行政權ノ行使ヲ手控セル如キ之レデアル。

#### (d) 行政部裁判機關ノ構成

著者ハ此ノ問題ヲ制度ノ形態ト其レヲ構成スル人員トノ二個ノ方面ニ分ツテ論ジテキル。其レニ依レバ現行行政部裁判機關ハ、例ヘバ失業保險審判所ノ如ク特定ノ成型ヲ以テ專任的ニ設置セラレタルモノト、保健大臣ニ於ケルガ如ク普通行政機關タル地位ニ併合セラレタル不定型ノモノトガアル。更ニ此ノ不定型ノモノ、中ニハ、特別ニ裁決補助機關ノ附置セラル、モノアリ、或ハ通常行政事務ニ於ケル如ク下僚ノ調査及報告ニ基イテ、上官之レガ所要ノ判決ヲ爲スモノガアル。

現行行政部裁判制度ノ組織方法上最モ甚シキ缺陷トスル所ハ、此ノ最後ノ形態即チ法律上ノ裁決權者ガ、其ノ下僚ノ調査

及ビ報告ニ基テ裁決ヲ爲ス場合、約言セバ『代判主義』トモ稱セラルベキ慣行ノ行ハル、場合之レデアル。蓋シ其レニ依レバ共等下僚ノ報告ト裁決權者タル上官ノ判斷トノ間ニ、屢々合理的ナル推論上ノ連絡乏シク或ハ全ク之レ無キ場合ヲスラ生ジ居ルガ故デアル。仍テ著者ハ此ノ弊ヲ除クベシトシテ、行政部裁判所ヲ總ベテ專任的定型ノモノトナシ、裁決資料ノ調査ト之レヲ理由トシテ特定ノ判斷ヲ下ス所ノ裁決者トヲ人格的ニ合一シテ、謂ハバ一種ノ『親制主義』トモ稱スベキ争訟手續上ノ原則ヲ實行スベシト提唱シテキル。而シテ此ノ種親制主義制度ノ利トスル所ハ、一方ニハ叙上ノ如キ裁決ニ於ケル前提的理由ト斷案トノ間ノ合理的一致ヲ擔保シ、他方行政裁決ヲノミ其ノ專職トスル特設ノ機關ノ設置ヲ見ルガ故ニ、分業ノ理ニ由リ行政部ノ事務就中裁決事務ノ簡陟ヲ期シ得ルニ在ル

然シナガラ裁判ノ公正妥當タルハ、組織ノ形態ヨリモ人ノ如何ニ負フ所ガ甚ダ多イ。裁判所ノ組織的形態ガ如何ニ完備セララル、ニ至ルモ、之レヲ運用スルニ裁判官タル人ノ宜シキヲ得ナケレバ、其ハ結局無爲ニ終ルノ外ハナイトシテ、著者ハ更ニ現行行政部裁判機關運用者ノ或選任方法ヲ提唱シテキル。即チ第一ニハ、行政法規ノ内容殊ニ既述ノ如キ新タナル技術的及ビ道德的標準立法ノ執行ノ爲メニハ、勿論各行政部門ノ關係行政争訟事務ニ精通シタル専門家ヲ得ルコトガ第一義的要件タルモ、併セテ經驗アル法律事務家ヲ之レニ附置シテ事實問題上ノ専門的



知識及ビ經驗ト法律問題上ノ其等トノ協同作用ヲ期スルカ、或ハ斯カル行政事務ノ専門家ヲシテ法律事務上ノ技術ヲモ兼習セシメテ、争訟裁決ノ技能ヲ補充スベキカノ方法ヲ講ズベントスル。第二ハ將來ニ於ケル行政争訟ノ裁決ハ多ク、單純ナル警察的強制力ニ依ルニ非ズシテ、寧ロ當事者ノ自發的遵守ニ依ツテ始メテ其ノ全キ執行ノ實ヲ得ベキモノタルヲ以テ、其ノ裁決機關ノ構成モ亦此ノ目的ニ適應セル方法ヲ以テセネバナラス。即チ例ヘバ利害ニ超然タル公平ノ第三者ヲ審判ノ長トシ、其ノ下ニ争訟當事者双方ノ等數代表者ヲ加ヘテ、之等各成分ヲシテ係争行政争訟ノ協解的裁決ヲ爲サシムベキガ如キ之レデアル。

#### (e) 現行行政法ノ危険

著者ハ行政法從ツテ既ニ屢々述ベタル理由ニ依ツテ現行行政裁判法ニ伴フ危険トシテ、其レガ可能ノ範圍ヲ逸脱シテ到底規律シ得ベカラザル事象ヲモ其ノ管轄ノ下ニ吸収セムトスル傾向ノ現ニ存スルコト、及ビ行政部裁判ノ制ガ現状ノ儘ニ推移セムカ、日々ニ重大サヲ加ヘ行キツ、アル行政法上ノ争訟ガ、無責任ニシテ不適任ナル行政下級官吏ノ、御役目式裁決ニ委セラル、ニ至ルベキ傾向ニ在ルコト等モ擧ゲテキル。

#### (f) 行政部裁判所及自治裁判所ニ對スル統制

著者ハ本項ニ於テ之等兩種ノ行政争訟裁決機關ニ對スル統制方法ヲ批判シ及ビ之レガ改善ノ方法ヲ提唱シテキル。即チ第一行政部裁判所ノ裁決ニ對シテハ、既述ノ如キ行政部裁判機關設

立ノ本旨ニ從ヒ、可成の司法裁判所ニ依ル統制權ヲ制約シ、唯其ノ裁決手續ニ於ケル形式法の瑕疵ノ匡正ニ就テノミ司法的上訴ヲ認ムベキデアル。實體の行政法ノ適用ニ於ケル統一及ビ適正ヲ計ル爲メニハ、其ノ屬スル行政各部ノ長官ヲシテ、例ヘバ行政裁決ノ根本方針ニ關スル公開ノ訓令書ヲ交付スルガ如キ方法ヲ以テ、行政監督的統制ヲ爲スベキデアルト。然シ斯クノ如キ行政統制方法ガ、他面ニ於テハ行政裁決ニ對スル政治的影響ナシニ行ハレ得ルヤ否ヤハ、大ナル疑問デアラネバナラス。

次ニ著者ハ一個ノ高等行政裁判所ヲ設ケテ、現行行政部裁判機關全體ニ依ル實體の行政法ノ適用ヲ統一セシムルヲ可トスト提唱シテキル。然シ此ノ點ニ就テ私ハ著者ノ說ニ贊シ難イ點ガ尠クナイ。蓋シ若シ著者ノ說クガ如クセバ、現行ノ行政部裁判機關ハ、其ノ裁決ノ形式法の瑕疵ノ匡正ニ就テハ司法裁判所ノ統制ニ服シ、他方ニハ其ノ實體の行政法ノ適用ニ就テハ高等行政裁判所ノ統制ニ服スルコト、ナル。而モ實體の行政法ト形式の行政法ノ分界甚ダ分明ナラザルコト多カルベク、從テ若シ兩者ノ間ノ區別ニ就キ行政司法兩裁判所間ニ爭議發生シタルトキハ、又別ニ權限裁判所ノ設ケヲ要スベキガ故ニ、裁判制度ハ彌ガ上ニモ複雑化シテ英國司法制度本來ノ單純美ハ破壊セラレ、就中爭訟當事者ヲシテ其ノ救濟ヲ求ムル適當ノ法廷ヲ見出スニ甚シキ困難ヲ經驗セシムルニ至リ、遂ニハ行政部裁判機關ヲ設置シタル本來ノ目的ニ背戾スルコト、ナルベキヲ以テ、アル。

而シテ著者ハ斯カル權限裁判所ノ要否等ニ就テハ全然考慮スル所ガ無カッタ。

自治裁判所ノ裁決ニ對シテ、著者ハ提案シテ曰ク、現在ノ如ク單ニ司法統制ヲ形式法的即チ訴訟手續法の瑕疵ノ匡正ノミニ止メズ、更ニ實體法ノ適用ニ於ケル過程ヲモ匡救スルノ點ニマデ擴大スベキデアルト。然シナガラ元來之等自治裁判機關ハ、著者自身屢々言及セン如ク、其處決スベキ事件自體ガ其レ等各自治團體ノ特殊ナル職業的又ハ社交的關係事項ニ屬スルモノデアル。仍テ其レニ關シテハ全然門外漢タル通常裁判所ノ管轄外ニ置クコトヲ、現行法モ認メテキル次第デアル。故ニ裁判ノ専門化ヲ認ムル著者トシテハ、當然之等専門的裁判機關ニ對スル常識的司法裁判ノ統制ヲ、可成的制約スベシト主唱スルコソ寧ロ其ノ主張前後相疏通スルモノトイフベキデアラウ。

#### (g) 行政部裁判制度改革案概要

最後ニ著者ハ叙上各所ニ散見サレタルモノヲモ含メテ、現行行政部裁判所改革私案トシテ十九項ニ亙ル暗示深イ提案ヲ試ミテキル。其ノ要點ヲ拾ヘバ、第一行政裁判所ノ審級問題ニ關シテハ、現行行政部裁判機關ヲシテ常ニ第一審級タラシムルコト。即チ行政部裁判所ハ必ズ行政爭訟ノ最初ノ段階ニ於テ其レヲ審決スベキ權ヲ有スベキデアル。蓋シ然ラズシテ、例ヘバ曾テ國營健康保險事件ニ就テ認メラレタルガ如ク第一審管轄權ハ之レヲ公認保險團體ニ委ネテ、行政部裁判機關ハ單ニ其ノ抗告訴願

受理權ヲノミ留保スルニ過ギザルニ於テハ、事件ノ裁決ノ適正タルコトヲ保證スルニ最モ重要ナル訴訟當初ノ段階ニ、參與スル能ハザルコト、ナルベキガ故デアル。次デ著者ハ既述ノ如ク現行々政裁判所ニ對スル統制管轄權者トシテ一箇ノ高等行政裁判所ヲ新設スベシト提案シテキル。

第二ニハ行政裁判所ノ管轄事項ハ如何ナル標準ニ依ツテ之レヲ決定スベキカヲ概説シテ、將來ノ立法ニ於ケル之レガ準據ヲ示シテキル。即チ其ハ (a) 社會主義又ハ社會政策立法ノ下ニ發生スベキ争訟タルコト、(b) 從來未開拓ニ委セラレタル行政分野(即チ新規標準立法ノ下)ニ生ズベキ争訟タルコト、(c) 行政各部ノ専門的知識及ビ經驗殊ニ行政部ノミ有シ得ル資料ヲ以テスルニ非ザレバ、其ノ適正妥當ナル裁決ノ期待シ得ラレザルガ如キ争訟タルコト、d) 就中當事者一方ガ公權力者タルコト等ヲ以テ、行政部裁判機關ト司法裁判所トノ管轄事項配分ノ標準トナスベキヲ主張シテキル。

第三ニハ行政部裁判所ニ於ケル審決手續及ビ其レニ對スル司法裁判所ノ統制權等ニ就テ種々ノ改良策ヲ提議シテキル。然シ其等ハ孰レモ既述行政部裁判所ノ短所及ビ其レニ對スル各種統制方法ヲ論ズルニ當ツテ言及シタル所ヲ、單ニ要約シタルニ過ギヌ。仍テ省略スルノ外ハナイ。

最後ニ著者ハ一般的結論トシテ、過去數十年ニ於テ頓ニ發達シ來タリタル英國行政法ハ、從來ノ私權絕對ノ個人主義法理ニ

對立シテ、公益保護ヲ本位トスル社會主義的法體系ノ一ナリト斷ジ、且向後モ更ニ一層ノ發達ヲ遂グベシト豫想シテキル。亦行政部裁判ノ制度モ將來漸次賢明ニ行用セラル、ニ至ルベク、從テ社會改革作業ノ上ニ好キ效果ヲ齎ラシ得ベシト豫想シ、大體ニ於テ英國行政法ノ過去及現在並ニ將來ニ對シテ、樂觀的の見解ヲ有シテキル。

### (B) ポート博士著『行政法論』

Robson 教授ノ著作ガ既述ノ如ク主トシテ英國現行行政裁判法ノ點ニ其ノ考察ノ對象ヲ集約シ、其ノ方法モ心理學的研究ニ依リ、他所ニ見ル能ハザル法學的手法ヲ見セテキルニ反シテ、Dr. Port ノ著作ハ主トシテ英國行政法ノ綜合的觀察ヲ主トシ、其ノ方法モ Prof. Robson ノ其レニ比スレバ、稍々月並的ノ感ジガ無イデモナイガ、或ハ歴史法學的ニ或ハ比較法學的ニ種々ノ視角ヨリ其ノ主題ヲ取扱ツテ、一讀直チニ英國現行行政法ノ實相一般ト其レガ西歐諸國ノ行政法系中ニ占ムル地位等ヲ觀測スルコトヲ得セシムル程、好ク纏ツタ作ト謂ツテ好イト思フ。

(I) 第一章 概要 本章ニハ主トシテ英國行政法ノ意義如何ノ問題ガ取扱ハレテキル。即チ先ヅ今ヨリ四十年以前既ニ Prof. Maitland ガ英國行政法ノ存在ヲ警告セル語ヲ引イテ冒頭言トシ、而カモ斯カル先覺者ノ警告及ビ行政法ノ嚴存ニモ拘ラズ、英國ニ於テ一箇ノ行政法學ガ其ノ發達ヲ遂グル能ハザリシ

事由如何トイフ問題ヲ導キ、暗ニ故 Dicey 教授及ビ其ノ行政法否定説ニ信倚セル英國公衆一般ノ自己満足ノ情念ニ一ツノ反省ノ冷水ヲ注イデキル。

著者ニ依レハ英國行政法不發達ノ原因ハ、大體次ノ三箇ノ事情ニ基クモノデアル。第一ニハ行政法ノ對象自體ガ諸他ノ法就中憲法等ノ其レニ比シテ取扱容易ナルザルコト。第二ニハ從來佛國行政法ノ法理及ビ精神ガ英國々法ノ其等ト全然相矛盾ストノ先入主的謬見アリシ爲メ、既ニ嚴存シタリシ一團ノ公法體系ニ『行政法』ナル用語ヲ附スルコトヲ嫌忌シ、從テ其レヲ獨立ノ一公法學的對象トナスコトヲ憚リタルコト。第三ニハ古來有名ナル英國法律學者ノ保守的態度ト公法ノ分類ヲ傳統的ニ忽諸ニ附シ乃至之レヲ全然否認シタル態度等即チ之レデアル。

次ニ著者ハ英國行政法ノ意義及ビ内容ノ如何ニ就テハ、諸家ノ異說ヲ引用批判シツ、行政法ヲ靜的行政法 (Static Ad. Law) ト動的行政法 (Dynamic Ad. Law) トニ分チ、前者ハ主トシテ (憲法ガ取扱フ以外ニ必要ナル) 行政權ノ組織ヲ對象トシ、後者ハ (等シク憲法ノ對象タル以外ノ) 行政作用ヲ其ノ對象トスト述ベテ居ル。但シ憲法ト行政法トガ取扱フ範圍ノ區別如何ノ問題ニ就テハ、著者ノ説ク所極メテ薄ク僅カニ Salmond ノ言ヲ引テ、其レガ區別ノ困難ナルコトヲ歎ゼルノミ。而シテ著者ノ所謂動的行政法ハ、實ニ純行政作用ノミナラズ、行政權者ニ依ル委任立法及ビ委任司法權ノ行用ヲモ包括規定スルモノ

デアルカラ、Prof. Robson ノ定義ノ如キ過狹ノ惧ハ無イ。ケレドモ Dr. Port ノ定義ニ依ツテハ、憲法トノ分界明カナラズ、讀者ヲシテ徒ラニ茫洋ノ歎ヲ經驗セシムルノ缺アルヲ免レス。

最後ニ著者ハ其ノ市法論ニモ言及シテ、歴史法學的及ビ比較法學的方法ガ英國現行行政法ノ研究ニ取ツテ必要ナル所以ヲ力説シテキル。而シテ著者ノ斯カル學的方法ハ後章ニ於ケル米國及ビ佛國行政法トノ比較研究ニ於テハ勿論、殊ニ英國行政法ノ史的發展ヲ考察スルニ際シテ、著シキ成功ヲ見セテキル。

(II). 第二章 概要 本章ニ於テ著者ハ英國行政權ノ發達ヲ沿革的ニ叙述シテキル。即チ中世以降今日ニ至ル行政權發展ノ段階ヲ四期ニ分ツテ、各時代ノ特相ヲ概觀シツ、其レガ英國公法史上如何ナル役割ヲ演ジ、就中行政法ノ發達ニ資スル所如何ニ多カリシカラ説明シテキル。

第一期タル中世ニ於テハ、古來ノ制タル國王ノ萬機親裁ニ依ル行政ガ漸次間接行政ニ、即チ諮詢機關タル樞密院及ビ地方代官等ニ依ル間接施政ノ形態ニ變遷シ行ク經過ヲ叙シ、更ニ樞密院自身モ亦其ノ分體作用ニ依ツテ行政部門ト立法乃至司法部門ニノ解體シ相獨立シツ、更ニ今日吾人ノ見ルガ如キ行政部門首要ナルモノヲモ育成スルニ至ツタ原始ノ事情ヲ述ベテキル。然シ斯カル變遷アリシニモ拘ラズ、中世ノ公權作用ハ、常ニ國王獨裁ノ行政權ヲ圓ノ中心トスル旋回運動ニ外ナラナカツタ。

第二期ハ Tudor and Stuard 兩王朝ノ治世期デアツテ、此時

代ニ於テ最モ注意スベキハ、一方ニ於テハ議會ノ勢力次第ニ強盛トナリ、或ハ其ノ立法作用ニ依リ或ハ行政府ニ對スル其ノ財務管督作用ニ依ツテ、國王ノ獨裁の行政權ノ行用ヲ甚シク制約シツ、アリ、又他方ニハ樞密院内ニ行政活動ヲ常務トスル特別委員會派生シ、國王モ今ヤ此特別委員會ヲ通ジテノミ百般ノ國政ヲ施スノ餘儀ナキ慣行ガ逐次確立セラレツ、アツタコトデアル。然シナガラ猶未ダ所謂議會主權ノ制成ラズ、國王ノ有スル傳統的威重嚴トシテ遺存シ居リタル爲メ、此ノ期モ猶行政權本位ノ時代デアツタト謂フノ外ハナイ。

第三期ハ 1688 年ノ名譽革命ヨリ 1832 年ノ國會議員選舉法大改正ニ至ル時期デアツテ、約言スレバ議會主權確立ノ時代デアツタ。從ツテ此ノ時代ニ於テハ從來ノ獨裁行政權ハ、新生ノ議會主權ニ其ノ霸ヲ讓リタルノミナラズ、後者ノ嚴酷ナル統制ニ服スルコト、ナツタノデアル。

第四期ハ 1832 年以降現在ニ至ル期間デアツテ、再ビ行政霸權ノ制即チ行政權中心ノ公法制度ヲ現出シタル時代デアル。從テ此ノ期間ニ於テ英國近代行政法モ其ノ顯著ナル發達ヲ遂ゲタノデアツタ。然シナガラ當代ノ行政霸權ノ制ハ、最早ヤ往昔ニ於ケル國王ノ獨裁の行政權ヲ中心トスルモノニ非ズシテ、國王ノ任意ナル統御ノ外ニ立ツ所ノ、政黨的行政府及ビ其ノ下ニ屬スル常任的行政官僚ノ權勢ヲ基調トスルモノデアル。斯クテ即チ當代ノ中央行政府ハ、(1) The Sovereign (國王)、(2) The



Political Executive (政黨的行政政府)、(3) The Permanent Executive (常任行政官僚團)ノ三者ヲ以テ成ルモノデアリ、而シテ政黨の行政政府ガ國王ノ任意ナル統制ノ外ニ立テルノ事實ハ所謂政黨內閣制ノ確立ニ依ツテ、其ハ全ク衆議院ニ於ケル多數黨ノ如何ニ依ツテ其ノ去就ガ決セラル、コト及ビ其ノ各閣員ハ同一政黨員タルコトヲ要シ、昔日ノ如ク單ナル國王ノ專斷ニ依ツテ免黜セラルベキ國王ノ祕書役乃至顧問タルニ非ザルコト等ニ依ツテ明カデアル。

內閣ノ國王ニ對スル關係ノ斯カル變化ニ加ヘテ、更ニ重大ナル變化ヲ國家行政權ノ行用上ニ及ボシタル著大ノ變化ハ、所謂國王ノ大權、別言セバ法律ノ形式上ハ國王ニ保留セラレアリト解セラル、國王ノ獨斷專行的行政大權ガ、今ヤ行政慣例上殆ド總ベテ國務大臣ノ自由ナル管掌ニ委ネラレタルコト即チ之レデアル。斯クテ國王ノ行政上ニ於ケル地位ハ全然單ナル名義上ノモノニ過ギザルモノト化スルニ至ツテキル。

次ニ常任的行政官僚ノ地位ガ、國王ニ依ツテハ勿論時々ノ內閣ノ隨意ニスラ左右シ得ベカラザルモノト成レル事實ハ、行政法上ノ慣例ガ關係法規ノ内容、換言セバ之等官吏ハ國王及ビ國務大臣ノ任意ニ免黜シ得ルモノタリトナス法律上ノ規定ヲ掣肘スルニ至レルコトニ依ツテ明カデアル。蓋シ斯カル法律ノ規定ノ存スルニ拘ラズ、既ニ 1763 年當時ニ於テスラ、時ノ總理大臣 “Fox” ハ、反政府的の色彩アル事務行政官ヲ免黜シタルノ故

ヲ以テ、議會ノ峻烈ナル非議ノ的トナリタルガ如ク、古クヨリ叙上ノ如キ法規ノ内容ハ行政慣例上多クハ制約セラレテ、事務行政官ノ地位ハ今ヤ實質上、國王及ビ國務大臣ノ任意ナル免黜ニ對シ確然保證セラル、コト、ナツテキルカラデアル。

行政霸權ノ制ヲ導イタ其ノ他ノ原因トシテ著者ノ述ブル所ニ依レバ、過去約半世紀ニ亙ル英國立法政策ガ個人主義不干涉主義ヨリ社會主義的干涉主義ニ移行シタル結果、國家活動ノ範圍著シク擴大セラレ、而カモ斯ク擴張セラレタル分野ハ既ニ Prof. Robson ノ著作ノ紹介ニ就テ述ベタルト同理ニ由リ、特殊ノ行政的就中科學的専門的智能ヲ有スルニ非ザレバ、其ノ妥當ナル處理ノ期待シ得ベカラザルモノデアツタ。而シテ今斯カル事項ノ處理ニ最モ通ジタル國家機關ヲ、政府三大部門ニ就テ見ルニ、(1) 立法府其レ自身ハ既ニ其ノ各院議員ノ選任方法上明カナル如ク僅少ノ者ヲ除クノ外ハ、唯政治的識見ニ於テノミ常人ヲ抜ケルノミ。仍テ立法府ハ既ニ斯カル特殊事項ヲ規定スベキ法規ノ制定ニ際シテスラ、所要ノ立法資料又ハ法案其レ自體ヲモ行政府就中常任的行政官僚ノ手ニ仰ガザルヲ得ヌ事情ニアル。即チ此ノ方面ノ立法權ハ實質上全ク行政官ノ管掌ニ委セラレ立法府ハ唯單ニ之レガ概括的批判ノ機關ニ過ギザルモノト化シテキル。而已ナラズ此ノ立法權ガ行政府殊ニ官僚ノ手中ニ移行スルノ傾向ハ、所謂委任立法（之レ亦立法府ノ特殊専門事項ニ關スル立法知識ノ欠缺ヲ補正スルノ一手段タルモノ）ニ依ツテ一層

激成セラレツ、アル。此ノ部面ニ於テハ單ニ事實上ノ問題トシテノミニ非ズ、法律上ノ問題トシテモ、今ヤ立法權ハ議會ノ手ヲ離レテ行政府ノ管掌ニ移轉セラレツ、アル次第デアアル。行政霸權ノ確立ハ其ノ當然ノ歸結デナケレバナラス。(2) 次ニ叙上ノ點ヲ司法院ニ就テ見ルニ、司法裁判所ノ構成モ亦既ニ判事ガ單ナル法律の専門家タルニ過ギズ、陪審員ノ如キニ至リテハ全くノ常識人ニ過ギザルガ故ニ、社會主義立法上ノ特殊専門事項ニ關シテハ殆ド知識及ビ經驗ナク、仍テ之レガ妥當ノ執行ヲ彼等ニ期待スル能ハザルハ理ノ當然デアアル。殊ニ英國司法裁判所ハ頑然常ニ個人主義法理ヲ固持シテ動カズ、爲メニ從來屢々公益本位ナル社會主義立法ノ所期ノ目的實現ヲ阻碍スルニ至ルノ事情ニ在ツタ。(3) 之レニ反シテ行政府ハ其ノ組織ガ既ニ各種特科ニ分化セラレテ、其ノ各員ハ社會生活各部ノ事象ニ就キ十分ノ専門的知識及ビ經驗アリ、且何等傳統的ニ固守スベキ確定ノ個人主義法理ヲ擁セザルガ故ニ、此ノ種社會主義立法ノ執行ニハ最適ノ機關タルコト自ラ明カデアアル。仍テ曩ニ委任立法ノ形式ヲ以テ自己ノ立法權ノ一部ヲ行政府ニ移管シタル議會ハ、之等社會主義立法ノ下ニ發生スベキ行政的爭訟裁決ノ權限ヲモ、再ビ行政府ノ手中ニ委ヌルノ立法政策ヲ採リ來タツタノデアアル。即チ元來司法院ノ管掌ニ屬スベキ權限ヲ行政部ノ管理ニ委任スルコト——委任司法ノ途ヲ選ムダノデアツタ。斯クテ行政霸權ハ愈々益々其ノ地歩ヲ確固タラシムルコト、ナツ

タ。

其ノ他著者ガ此ノ行政覇權又ハ行政優越ノ新法理發生原因トシテ附帶的ニ述ブル所ニ依レバ、立法機關及ビ司法機關ノ活動期間ガ斷續的ニシテ其ノ構成人員モ尠少ナルニ反シテ、行政府ハ斯カル缺ヲ補フニ足ル長所ヲ有スルコト、並ニ英國行政組織ノ近年著シク中央集權化シタルコト等モ亦、行政府ガ他ノ二府ニ對シテ優越ナシ公法上ノ地位ヲ獲得スルニ至リタル事由デアツタ。

(III) 第三章 概要 本章ニ於テハ政府ノ立法・司法・行政ナル三作用ノ意義及ビ其等相互ノ關係等ヲ取扱ツテキル。而シテ本章ニ於ケル著者ノ目的ハ、先ヅ行政作用ヲ他ノ二作用ニ對シテ明別シ、行政權固有ノ活動範圍ヲ確立シ、次章以下ニ於テ取扱ハルベキ行政權者ノ委任立法及委任司法權ノ作用ニ對シテ序言ヲ提示セムトスルニ在ル。其等三權相互ノ關係ニ就テハ、Aristotle 以來ノ三權分立主義ニ關スル諸家ノ說ヲ論評シツ、三權分立說ニ硬派軟派ノ別アルコトヲ示シ、前者ノ立法例トシテ合衆國憲法ヲ引用シテ、其レニ伴フ弊言ヲ述ベ且事實上絶對的三權分立主義ノ嚴格ニ適用セラレザルモノタルコト等ヲ述ベテキル。然シ著者ハ此ノ場合行政法本來ノ問題トハ比較的縁遠キ問題ニ深入リ過ギタルノ感ガ尠クナイヤウニ思ハレル。仍テ私ハ本章ニ就テ餘リ多クヲ茲ニ述ベルコトヲ欲シナイ。

(IV) 第四章 概要 本章ニ於テハ行政團體ニ依ル立法作用

ヲ論ジテキル。即チ先ヅ冒頭ニ於テハ行政部立法ノ沿革ヲ瞥見シテ、往時王權ノ強大タリシ當時ハ寧ロ行政部立法ノ制ヲ本則トシタルモ、時勢ノ進ムルニ伴レテ漸次議會主權ノ法理確立セラルルニ至ルヤ、國王ノ立法權ハ逐次議會ノ手ニ移管セラレテ、遂ニハ行政部立法ガ例外的ノ制タルニ至ツタ事情ヲ詳細ニ述ベテキル。サレド茲ニ注意スベキハ、斯カル議會主權ノ制ノ確立セラレタル當時ニ於テスラ、行政部立法ハ所謂國王ノ大權ヲ通ジ、即チ大權命令 (Prerogative Orders) ノ形式ヲ以テ常ニ行ハレタル事實デアル。加之、叙上ノ如ク議會ハ近代の社會主義ヲ爲スニ際シテハ其ノ彈力アル妥當ノ執行ヲ期セムガ爲メ、唯法規ハ大綱ヲノミ制シテ、細規ハ之レヲ行政機關ノ制定ニ委ヌルコトトナリ、行政部立法ハ復タ再ビ往時ノ脈ヲ呈スルニ至ツタノデアル。

著者ハ斯クノ如キ行政部立法本位制度復活ノ理由ヲ、沿革的及ビ比較法學的ニ或ハ純理的各般ノ方面ヨリ觀察シ、其ノ因素ヲ分析解剖シツツ、既述ノ委任立法盛行ニ關スル理由ヲ更ニ詳細敷衍シテキル。然シ其等ハ多ク前數章ニ述ブル所ト重複スルモノモ尠クナイ。故ニ茲ニ再ビ繰返スノ要ヲ見ナイ。而已ナラズ著者ハ英國近代行政法ノ最モ特徴アル點ニ其ノ考察ヲ集中セズシテ、然ラザル部門ニ至ル説明ヲ稍々詳細ニ爲シ過ギタルノ感ガアル。此ノ點ハ前記 Prof. Robson ノ著作ノ方ガ遙カニ其ノ要所ヲ突イテ居ルモノノ如ク思ハレル。蓋シ行政部立法ノ制

ハ、著者モ縷言セル如ク英國公法上古來連綿トシテ存在シタリシ制度タルニ反シ、行政部裁判ノ制ハ實ニ 1640 年、Star Chamber ノ廢止ヲ中心トスル行政裁判所撤廢以來、久シク其ノ影ヲ潜メテ其ノ存在セシ史實スラ多クノ人ノ記憶ヲ遠ザカルノ事情ニ在リ、且之レニ代ヘテ司法裁判絶對ノ制（即チ法律優越ノ原則ノ一側面タル）ガ確立セラレ、Dicey 教授一派ノ英法至上ノ誇ヲ抱持セシムルニ至ツタノデアツタ。然ルニ今ヤ此ノ制モ亦古ヘノ制ニ服シテ、行政部裁判ハ盛行セラレ英國近代行政法ニ特異ナル發達ノ動因ヲ與ヘタルガ故デアル。此ノ點ニ於テ吾人ハ Prof. Robson ノ慧眼ニ感服セザルヲ得ナイ。

(V) 第五章 概要 本章ハ行政部員ニ依ル司法的活動ノ問題ヲ取扱ツテキル。即チ冒頭ニハ先ツ行政部裁判所ト司法裁判所トノ區別ノ標準ヲ詳述シテキル。而シテ著者ニ依ツテハ兩者ハ、司法作用其ノモノヲ標準トスルヨリモ、寧ロ舊來司法裁判所ヲ特色附ケタル諸條件ヲ取ツテ其ノ區別ノ標準トシテ、其レニ適合セザル新設ノ裁判機關ハ之レヲ行政部裁判機關ト看做シテ不可ナイデアテウ。次ニハ本書ノ主要問題トシテ、通常行政機關ノ行爲ニ對スル行政部裁判所及ビ司法裁判所ノ審査權ノ意義・範圍・效力等ノ事項ヲ概記シテキル。然シ前述 Prof. Robson ノ著作ノ紹介ニ就テ略其ノ概要ハ盡サレタリト思料スルガ故ニ、茲ニハ之レガ詳述ヲ避クルノヲ適當ト思フ。

更ニ附隨問題トシテ國家及ビ其使用員並ニ地方公共團體及ビ

共ノ吏員等ノ行政法關係上ノ責任問題ニモ一言説キ及ボシ、章末ニハ 1927 年ニ公表セラレタル對國家訴訟法案ノ全文ヲ附録トシテ掲ゲアルガ故ニ、吾人ハ此ノ問題ニ就テモ簡單ナガラ英法現在ノ法狀ヲ知ルコトガ出來ル。

(VI) 最後ノ數章概要 第六章ハ米國行政法及ビ行政裁判制度ヲ、第七章ハ佛國ノ其等ヲ概觀シテ、英國現行行政法及ビ行政部裁判制度ガ世界ノ行政法體系中ニ占ムル地位及ビ其ノ特異ナル形相等ヲ闡明セムトシテキル。然シ既ニ大陸行政法ニ精通セラルル我ガ日本ノ讀者ニ取ツテハ斯カル比較ノ資料ナクモ、十分其ノ觀察ヲ遂ゲラルル素地アリト考フルガ故ニ、其ハ親シク原著ニ接セラルル特志讀者ノ爲メニ割愛スルノ外ハナイ。第八章ニ於テハ如上各章ノ綜合的結論及ビ二三ノ行政部裁判制度改革案ヲ提示セラレテ居ル。然シ其ノ述ブル所ハ、勿論細部ニ至ツテハ可成リノ相異ナキニ非ザルモ、前出 Robson 教授ノ著作ニ述ブル所ト略々同巧異曲デアアル。仍テ之レ亦割愛スルノ外ハナイト思フ

## 第二 英國ニ於ケル其他ノ參考書

### (I) 一般的ノモノ

- a) Dicey, A. V., "The Development of Administrative Law in England," *Law Quarterly Review* Vol. 30. No. 122.
- b) Ghose, N., "Comparative Administrative Law"

- (Tagone Law Lectures, 1918), Caloutta, 1919.
- c) Gneist, R., (i) “Das Heutige Englische Verfassungs- und Verwaltungsrecht,” 3 Teilen, Berlin, 1857—1863.  
(ii) “Verwaltung, Justiz, Rechtsweg, Staatsverwaltung und Selbst-verwaltung nach englischen und deutschen Verhältnissen,” Berlin, 1869.  
(iii) “Selfgovernment, Communalverfassung und Verwaltungs-gerichte in England” Berlin, 1871.  
(iv) “Das Englische Verwaltungsrecht der Gegenwart,” Berlin, 1883.
- d) Hatschek, J., “Englisches Staatsrecht II. Band: Verwaltung” Tübingen, 1906.
- e) Mestre, A., “Droit Administratif,” Cambridge Law Journal Vol. 3, No. 3, 1929.
- f) Morgan, J. H., “An Introductory Chapter” on Remedies against the Crown to Gleeson E. Robinson’s Public Authority and Legal Liability, London, 1925.
- (II) 特殊行政法問題ニ關スルモノ
- a) Ehrlich Ludwick “Proceedings against Crown” in Oxford Studies in Social and Legal History Vol. VI, Part XII, Oxford, 1921.
- b) Davidson (D. du Bois) “War Compensation,” Journ-



- al of Public Administration, Jan., 1927.
- c) Gondon, J. W., "The Crown and the Courts"—  
Actions against State Departments," London, 1928.
- d) Holdsworth, W. S., "The History of Remedies against  
the Crown", Law Quarterly Review Vol. 38 No. 150  
—, 1922.
- e) Robertson G. S., "Civil Proceedings by and against  
the Crown and Departments of the Government," Lon-  
don, 1908.
- f) Scott, L. F., "Proceedings by and against the Crown"  
London, 1928
- g) Wiltshire, F. H. C. "Appellate Jurisdiction of Central  
Government Departments," Journal of Public Ad-  
ministration, Vol. II. No. 4, Oct. 1924.

以上ハ唯英國近代行政法ニ關スル參考書ノ中、現ニ私ノ手許  
ニ存スルモノニ過ギヌ。我々ハ猶他ニ幾多ノ行政法及ビ行政裁  
判法ノ研究資料ヲ有スル。例ヘバ地方行政法ニ關スル數知レヌ  
著作或ハ憲法學上ノ論著ニ見出サルベキ行政的側面ノ資料ノ如  
キ之レデアル。然シ其等ハ私ガ茲ニ取立テテ紹介スル迄モ無  
ク、夙ニ我ガ國ノ篤學ナル讀者諸賢ノ熟知セラルル所ト信ズル  
ガ故ニ、茲ニハ其レヲ省略スルノ外ハナイ。

### 第三 米國ニ於ケル行政法及ビ行政裁判法研究資料

米國ニ於テ今日マデ發表セラレタル資料ハ、殆ド枚擧ニ遑ナイモノガアル。從テ共等各資料ノ内容ニ就テハ單ニ概要ヲ述ブルトシテモ、優ニ數百頁ノ稿ヲ要スルコトナル。加之、英米法系中最モ保守的傾向ニ富メル英本國ノ資料ニ就キ既ニ可成リ詳細ニ互ツテ、其處ニモ今ヤ行政法及ビ行政裁判制度ノ嚴存セル事實、其ノ特異ナル意義及ビ形相等ヲモ略紹介シ得タリト信ズルガ故ニ、同法系中最モ進歩的無拘束のナリトセラルル米國ノ其レニ就テハ、唯其ノ關係研究資料ノ題目ヲ掲グルノミニテ、讀者諸賢ノ米國ニ於ケル行政法ノ事情ヲ推斷スベキ參考タルニ足ルト思フ。仍テ以下ノ如ク之等ヲ先ヅ一般及ビ特殊ノ兩部門ニ分チ、更ニ後者ヲ相當ノ部類ニ區分シテ紹介スルコトヲ許サレタイ。

### (I) 一般的ノモノ

- (1) Berle, A. A., "Expansion of American Administrative Law," *Harvard Law Review*, Vol. 30, March, 1917.
- (2) Dickinson, J., "Administrative Justice and the Supremacy of Law" Cambridge, 1927.
- (3) Fairie, J. A., "Illinois Administrative Code," *American Political Science Review*, May, 1917.
- (4) Freund, E. ; Fletscher, R. V. ; Davis, J. E. ; Pound, C. W. ; Kurtz, J. A. and Nagel, C., "The Growth

- of American Administrative Law," St. Louis, 1923.
- (5) Freund, E., "Administrative Powers over Persons and Property" Chicago, 1928.
- (6) The Same Author, "American Administrative Law," Political Science Quarterly Vol. 9, No. 3, Sep. 1894.
- (7) The Same Author, "Cases on Administrative Law" St. Paul, 1911.
- (8) Goodnow, F. J., "Comparative Administrative Law" New York and London, 1893.
- (9) The Same author, "The Principles of the Administrative Law of the United States," New York and London, 1905.
- (10) The Same Author, "Cases on American Administrative Law" Chicago, 1906.
- (11) The Same Author, "Administrative Law," University Law Review Vol. I. p. 115—.
- (12) Hairman, E. A., "Development of Administrative Law in the U. S.," Yale Law Journal Vol. 25, June 1916.
- (13) Pound, R., "The Revival of Personal Government," Proceedings of N. H. B. Assn., Vol. 13, 1917.

- (14) Wyman, B. "Principles of Administrative Law governing the relations of Public Officers" St. Paul, 1903.

猶其ノ他ノ資料ハ上掲 Goodnow's "Comparative Administrative Law and American Administrative Law" ノ各卷末ニ、或ハ Mathew's "American State Government," New York, 1925 ノ各章末ニ列擧ヒラレタル文献ヲモ参照セラレタイ。

## (II) 特殊のモノ

### (A) 行政部裁判機關一般ニ共通ノモノ

- (1) Baty, T., "Supersession of the Law Courts by Bureaucracy," Law Magazine and Review, Vol. 38, pp. 139—, 1913.
- (2) Freund, E., "Commissions Powers and Public Utilities" American Bar Assn. Journal, May, 1923.
- (3) Goodnow, F. J., "The Growth of Executive Discretion" Pro. Am. Sci. Assn. Vol. 2, pp. 29—.
- (4) ——— "Private Rights and Administrative Discretion," Law Journal, pp. 165—174, Sep. 8, 1916.
- (5) Grimm, E. H., "Administrative Determination," St. Louis Law Review, Ja. 1919.
- (6) Guthrie, W. D., "Exercise of Judicial Powers by Executive or Administrative Officers, bureaus, boards

- or commissions, New York Bar Assn. pp. 169—189, 1923.
- (7) Harvard Law Review, Vol. 35, Feb. 1922 ; “ Administrative Determination of Private Rights.”
- (8) Law Magazine and Review pp. 361—362, May 1915 ; “ Powers of Administrative Boards.”
- (9) Martin, E. D., “ The Lines of Demarcation between Legislative, Executive and Judicial Functions, with special reference to the acts of administrative boards or commissions,” American Law Review, Vol. 47, Sep. 1913.
- (10) McBride, C. E., “ Evolution of Government by Commissions and the Decline of the Judiciary,” Ohio Law Bulletin pp. 4—8. Jan. 1917 ; Chicago Leg. Note, Vol. 49, pp. 190—192, Jan. 1917.
- (11) Needham, C. W., “ Judicial Determination by Administrative Commissions, Am. Pol. Sci. Rev., May, 1916.
- (12) Parker, E. M., “ Executive Judgment and Executive Legislation,” Harvard Law Rev., Vol. 20 pp. 116——.
- (13) Pilsbury, W. H., “ Administrative Tribunals,” Harvard Law Rev. Vol. 36, 1922—1923.

- 
- (14) Pound R., "Administrative Justice," *Wisconsin Law Rev.* Vol. 2, Jan. 1924.
- (15) ———, "Executive Justice," *American Law Register*, Vol. 46, No. 3.
- (16) ———, "The Administrative application of Legal Standards" *American Bar Assn.* Vol. 44.
- (17) Powell, T. R., "Seperation of Powers, Administrative Exercise of Legislative and Judicial Powers," *Poli. Sci. Rev.* Mar. 1913.
- (18) Smith, R. H., "Administrative Justice," *Ill. L. Rev.* Vol. 18, 1923—1924.
- (19) Torrison, O. M., "Exercise of Judicial Powers by Executive Boards and Administrative Officials," *Illinois Bar Assn. Reports*, pp. 399——, 1920.
- (B) 各個ノ行政部裁判機關ニ關スルモノ**
- (1) Henderson, G. C., "Federal Trade Commission" *New Haven*, 1925.
- (2) P., E. M., "Federal Trade Commission, Constitutionality of its Investigatory Power," *California Law Rev.* Vol. 8, May, 1920.
- (3) Fullor, H. B., "The Act to Regulate Commerce Considered by the Supreme Court." *Washington*,

1915.

- (4) Helson, J. H., "Interstate Commerce Commission" New York, 1908.
  - (5) Robinson, G. H., "The Hoch-Smith Resolution and the Future of the Interstate Commerce Commission," Harvard L. Rev, Vol. 42, No. 5, Mar. 1929.
  - (6) Patterson, E. W., "Insurance Commissioner in the U. S., Cambridge 1927.
  - (7) Hotchkiss, W. E., "The Judicial Work of the Comptroller of the Treasury," New York, 1911.
  - (8) Port, L. F., "Administrative Decisions in connection with Immigration," Am. Pol. Sci. Rev. May, 1916.
  - (9) McClintock, H. L., "Public Land Controversies," Minesota Law Rev. Vol. 9, No. 7.
  - (10) Pienie C. R., "Land Department as an Administrative Tribunal," Am. Pol. Sci. Rev. Vol. 10, May, 1916.
- (C) 行政部裁判制度ニ對スル批判
- (1) Watkins, E., "Commissions versus Courts," Law Notes, Vol. 25. pp. 201—2, Feb. 1922.
  - (2) Wigmore, J. H., "Danger of Administrative Discretion" Ill. L. Rev., Feb. 1925.

**(D) 行政部裁判手續ニ關スルモノ**

- (1) Board of Tax Appeals, "Procedure and Practice before the U. S. Board of Tax Appeals," Washington, 1927.
- (2) Government Printing Office of the U. S., "Rules of Practice before the U. S. Board of Tax Appeals Washington, 1928.
- (3) Hamel, C. D., "The U. S. Board of Tax Appeals ; Practice and Evidence," New York, 1926.
- (4) Harvard Law Review, Vol. 36, Nov. 1922 : "Common Law Rules of Evidence in Proceedings before Administrative Tribunals."
- (5) ———, Vol. 28, Dec. 1914 : "The Right to a Hearing before Administrative Tribunals."
- (6) ———, Vol. 28, June 1915 : "Essentials of Hearing before Administrative Board acting judicially.
- (7) Massachusetts Law Quarterly Vol. 8, Dec. 1922 : "Common Law Rules of Evidence in Proceedings before Administrative Tribunals."
- (8) Thorpe, G.C., "Federal Departmental Organization and Practice" St. Paul, 1925.



- (9) Wigmore, J. H., "Administrative Boards and Commissions; Are the Jury-Trial Rules of Evidence in force for their Inquiries? Ill. L. Rev. Vol. 17, pp. 263—282.
- (E) 行政部裁判機關ニ依ル裁決ノ終決的効力ノ存否及ビ之レニ對スル司法統制權ニ就テ
- a) 行政部裁判ノ終決的効力ニ關スルモノ
- (1) Columbia Law Rev. Vol. 24: "Conclusiveness of Findings of Facts by Licensing Board."
- (2) Grimm, E. H., "Administrative Determination," St. Louis Law Rev. pp. 140—, 1919.
- (3) Hardman, T. P., "Extent of the Finality of Commission's Rate Regulation," West Virginia Law Quarterly Vol. 28, Jan. 1924.
- (4) Harvard Law Rev. Vol. 23, June 1910: "Immunity from Judicial Control of Executive officers ....."
- (5) Haukin, G., "Conclusiveness of the Federal Trade Commission's Findings of Facts," Michigan Law Rev. pp. 232—271, Jan. 1925.
- (6) Powell, T. R., "Conclusiveness of Administrative Determinations in Federal Government," Pol. Sec. Rev. Vol. 1. pp. 583—.

- 
- (7) Wiel, S. C., "Administrative Finality," Mich. L. Rev. Jan. 1925.
  - (8) Yale Law Journal Vol. 28, May 1919: "Findings of Facts; Conclusiveness of Administrative Determination."
  - (9) ———, Vol. 32, Feb. 1923; "Commission for Indian Lands; Judicial Non-Interference with Findings of Facts."

**b) 行政部裁判ニ對スル司法統制ノ有無及ビ範圍等ニ關スルモノ**

- (1) Albertsworth, E. F., "Judicial Review of Administrative Action by the Supreme Court," Harvard, Law Rev. Vol. 35, 1921.
- (2) Corwin, E. S., "The Doctrine of Judicial Review," Princeton, 1914.
- (3) Curtis, L., "Judicial Review of Commission Rate Regulation," Har. L. Rev. Vol. 34 pp. 862—.
- (4) Dobie, A. M., "Judicial Review of Administrative Action" Verginia Law Rev. May 1922.
- (5) Freund, E., "Right to a Judicial Review in Rate Controversies," West Verginia Law Quarterly, Vol. 27, Mar. 1921.
- (6) Harvard Law Rev. Vol. 35, Apr. 1922: "Administra-

- tive Law, Judicial Review, Conclusiveness of Findings of Facts by Workmen's Compensation Commission under Due Process Clause.
- (7) ———, Vol. 37, Jan. 1924: "Procedure, Judicial Rule of Review applied to Immigration Board."
- (8) H. M. T. V., "Judicial Control of Administrative Judgment," West Virginia L. Rev. Vol. 27, 1922.
- (9) Issacs, N., "Judicial Review of Administrative Findings." Yale Law Journal Vol. 30, June 1921.
- (10) Levitt, A., "Judicial Review of Executive Acts," Mich," L. Rev., Vol. 23, Apr. 1925.
- (11) Michigan Law Rev., Vol. 10, Apr. 1912: "Control by the Judiciary over the Chief Executive of a State."
- (12) ———, Vol. 20, Dec. 1921: "Constitutional Law, Judicial Review of Orders of a Commission."
- (13) Morgan, J. V., "Jurisdiction of the Courts of the D. C. with respect to the Federal Department," Georgia Law Journal, Vol. 9. 1921.
- (14) Nicholson. C. L., "Judicial Review of the North Carolina Corporation Commission," N. C. L. Rev. Vol. 2. Feb. 1924.
- (15) Oberlin, P., "Equitable Jurisdiction of Commerce

- Court over Dismissal of Orders of Interstate Commerce Commission," *Central Law Journal*, Vol. 73, Oct. 1911.
- (16) Pine, D. A., "Judicial Control of the Executive by Mandamus and Injunction," *Geo. Town Law Journal*, Vol. 13, Jan. 1925.
- (17) Powell, T. R., "Judicial Review of Administrative Action of Immigration Proceedings," *Har. L. Rev.* Vol. 22, pp. 360—.
- (18) Simonton, J. W., "Judicial Control of the Missouri Service Commission," *Law Ser. Mo. Bull.*, Vol. 31, Dec. 1924.
- (19) *Washington Law Reports* Vol. 52 Feb. 1924: "Order, Rules of Practice in the Supreme Court on Petition to review the Orders of the Commission of Patents."
- (20) *Yale Law Journal* Vol. 23, Nov. 1913: "Constitutional Law, Power of Judiciary, Review of an Action of Government."
- (21) ———, Vol. 27, Jan. 1918: "Judicial Review of Administrative Determination."
- (22) ———, Vol. 30, June. 1921: "Review of Ad-

ministrative Action, Revocation of Second Class Mail Privilege.”

- (23) ———, Vol. 32, May, 1923: “Constitutional Law, Power of Court to review Administrative Decisions.”

**(F) 特別裁判所タル行政裁判所ニ關スルモノ**

**a) 一般ニ共通セルモノ**

- (1) Babbitt, B. F., “Federal Judicial Code and Equity Rules,” Chicago, 1925.
- (2) Baldwin, S. E., “The American Judiciary,” New York, 1925.
- (3) Caruthers, A., “History of a Law-Suit” Cincinnati, 1919.
- (4) Countryman, E., “Supreme Court of the U. S.,” New York, 1913.
- (5) Dewhurst, W. W., “The Annotated Rules of Practice in the U. S. Courts,” New York, 1919.
- (6) Hopkins, J. L., “The New Annotated Federal Judicial Code,” Cincinnati, 1925.
- (7) Montgomery, C. C., “A Manual of Federal Jurisdiction and Procedure,” San Francisco, 1927.
- (8) Rightmir, G. W., “Special Federal Courts,” Ill. L.

Rev. Vo.. 13, May—July, 1918.

- (9) Robertson, R., "Appellate Jurisdiction and Procedure in the Supreme Court of the U. S.," New York, 1928.
- (10) Rose, J. C., "Jurisdiction and Procedure of the Federal Courts," Albany, 1922.

**b) 請求裁判所ニ關スルモノ**

- (1) Albany Law Journal, Vol. 49, pp. 79— ; Alb. L. J. Vol. 51, pp. 45— ; Green Bag, Vol. 7. pp. 12—: "Court of Claims, Notable and Curious Cases in."
- (2) Am. L. Rev. Vol. 10, pp. 81—: "Claims against Government."
- (3) Atkinson, G. W., "The United States Court of Claims," Am. L. Rev. Vol. 46, pp. 227—, 1912.
- (4) Clarity, A. J., "Jurisdiction and Works of the Court of Claims," Ill. S. B. A. pp. 563—, 1923.
- (5) Connell L. Q. Vol. 5, Mar. 1920: "Jurisdiction of the Court of Claims in Tort Cases against the States."
- (6) Craine, J. A., "Jurisdiction of the U. S. Court of Claims," Har. L. Rev. Vol. 34, pp. 161—, 1920.
- (7) Fancher. B. T., "Court of Claims," Am. Leg. N.

Vol. 28, Aug. 1917.

- (8) Kingsbury, H. T., "Act of State Doctrine, advocating the Extension of Jurisdiction Court of Claims to Alien and Citizen alike in cases of Injuries through Official Acts of Government Officers," *Am. J. Int. Law*, Apr. 1910.

**c) 關稅裁判所及ビ關稅控訴院ニ關スルモノ**

- (1) Government Printing Office of the U. S., "Rules of the United States Customs Court, Washington 1927.
- (2) *Journal of Political Economy* Vol. 18, Nov. 1910 ; "Courts of Customs Appeals" (Notes on Organization and Jurisdiction).
- (3) *Law Stud.*, Vol. 19, Jan. 1911: "Customs Court ready for work" (Revue of Personnel, Powers, Jurisdiction and Duties).
- (4) *Law Times*, Vol. 131, June 24, 1911: "Customs Appeals and Commerce Court."

**d) 高等行政裁判所設置提案**

- (1) Walton, C. S., "Necessity for a Court of Appeals in Administrative Matters arising before the Departments of the Federal Government."

## e) 特許行政裁判所設置提案

- (1) Alb. L. J. May 1908: "The Proposed Court of Patent Appeals" by O. R. Barnett.
- (2) Ohio Law Rev. Vol. 6, Aug. 1908: "Court of Appeals in Patent case" (a logical solution of the present unsatisfactory conditions in Patent Suits proposed by O. R. Barnett).
- (3) Turner, C. A. P., "Need of a Special Patent Court," Cent. L. J. Vol. 93, pp. 96—, 1921.

## (G) 國家及ビ州ノ被訴能力及ビ責任限度等ニ關スルモノ

- (1) Colum. L. Rev., Vol. 19, Nov. 1919: "Liability of State" (Trespass by Soldiers).
- (2) Forest, G. de, "Admiralty Claims against the Government," Colum. L. Rev. Vol. 19, Dec. 1919.
- (3) Freund, E., "Private Claims against the State," Pol. Sei. Q. Vol. 8. No. 4, Dec. 1893.
- (4) Maguire, J. M., "State Liability for Tort," Har. L. Rev. Vol. 30, Nov. 1916.
- (5) Watkins, R. D., "The State as a Party Litigant," Baltimore, 1927.
- (6) Hinkle, T. M., "Our Supreme Court as an International Tribunals (declaring with the Power to



annual State Legislation and settle Disputes between States),” Ohio L. B. Vol. 53, pp. 419—425.

- (7) Scott, B., “Judicial Settlement of Controversies between States of the American Union, Oxford 1919.

**(H) 特別行政救済等ニ關スルモノ**

- (1) Cent. L. J., Vol. 66, Jan. 31, 1908: “Right of Federal Court to restrain enforcement of Rate Regulation Statutes.”
- (2) ———, Vol. 69, July 16, 1909: “Federal Injunction of State Officials to prevent the enforcement of laws claimed to be confiscatory.”
- (3) Ferris, F. G., “The Law of Extraordinary Legal Remedies” St. Louis, 1926.
- (4) Har. L. Rev. Vol. 21, Jan. 1908: “Jurisdiction of Federal Courts to issue Writ of Habeas Corpus to relieve from Commitment by State Court.”

**(I) 行政部ニ依ル委任立法權ノ行使ニ關スルモノ**

- (1) Fairie, J. A., “Administrative Legislation,” Mich. L. Rev. Vol. 18, pp. 181—200.
- (2) Foster, S. A., “Delegation of Legislative Power to Administrative Officers,” Ill. L. Rev. Vol. 7, Feb. 1913.

- 
- (3) Parker, E. M., "The Executive Judgment and Executive Legislation," Har. L. Rev. Vol. 20, pp. 116—.
- (4) Powell, T. R., "Seperation of Powers ; Administrative Exercise of Legislative and Judicial Powers," Pol. Sci Q. Vol. 27, June, 1912.

(在倫敦 中村彌三次)